

SOCCER TOCHIGI COMMUNICATION MAGAZINE

SOCCER TOCHIGI

(公社) 栃木県サッカー協会事務局

〒320-0857 宇都宮市鶴田2-2-10 鈴運メンテック(株)ビル2F

TEL 028-688-8411 / FAX 028-688-8400

URL <http://www.tfa.or.jp/>



vol.97,98

2021年3月31日発行



「カンセキスタジアムとちぎ」完成 (栃木県総合運動公園陸上競技場)

- 開場／2020年(令和2年)
- 収容人数／25,244席(車椅子席含む)
- スタンド全周2層式、栃木SCチームカラー採用
- 内装に栃木県産の木材や大谷石などの資材使用

写真提供／下野新聞社 (2020年6月)



contents

事務局より	
2020年度 公益社団法人栃木県サッカー協会 各種表彰受賞者	3
2021年度ミッションファイル	4
2021年度アクションプラン	5
第100回天皇杯全日本選手権	14
第42回皇后杯全日本サッカー選手権、本県での開催	14
栃木サッカークラブ	
栃木SC 田坂和昭監督ご挨拶	15
第1種委員会・社会人連盟	
コロナ禍の2020シーズン	15
2021シーズンに向けて・栃木シティフットボールクラブ	17
FC CASA FORTUNA OYAMA	18
作新学院大学サッカー部の活動について	19
第2種委員会・高校連盟	
高校連盟より	19
第99回全国高等学校サッカー選手権大会 栃木大会	21
高田宮杯U-18サッカーリーグ2020 ユースリーグ栃木1部	22
高田宮杯U-18サッカーリーグ2020 ユースリーグ栃木2部A、B	22
高田宮杯U-18サッカーリーグ2020 ユースリーグ栃木3部a~f	23
高田宮杯 JFA U-18サッカープリンスリーグ2020関東	25
2020年度栃木県高等学校定時制通信制サッカー競技について	25
2020年度第8回栃木県高等学校定時制通信制秋季大会サッカー競技	25
2020年度第35回関東地区高等学校定時制通信制サッカー大会	25
高校女子サッカー2020年度シーズンを終えて	26
第29回栃木県高等学校女子サッカー選手権大会	27
第3種委員会・中学連盟	
2020年を振り返って	28
令和2年度の3種・中体連活動報告	28
第4種委員会・少年連盟	
4種委員会 会長あいさつ	30
第49回U-10栃木県サッカー選手権大会	31
JFA第44回全日本U-12サッカー選手権大会栃木県大会	31
クラブユース	
2020年度 第14回関東ユースU-15サッカーリーグ 2部A 優勝(ウイングスSC)	32
2020年 高田宮杯 第32回全日本ユース(U-15)サッカー選手権栃木県予選 優勝(矢板SC)	33
2020年度 第17回栃木県クラブユース連盟 ラストゴール杯 優勝(FC朱雀)	34
栃木県クラブユース連盟 審判委員長 添田様 退任のご挨拶	34
シニア委員会・連盟	
JFA第9回全日本O-40サッカー大会に出場して	35
2020年度 JFA 第19回 全日本O-50サッカー大会関東予選会	36
2020年度 JFA 第21回O-60サッカー大会関東予選会	37
2020年度 JFA 第15回 全日本O-70サッカー大会関東予選会	38
キッズ委員会	
2020年度活動報告	39
フットサル委員会・連盟	
宮川フットサル委員長に聞く フットサル コロナ禍の1年	40
参入戦で相次ぎ強豪撃破 栃木シティ 関東リーグ昇格	40
女子委員会・連盟	
徳田女子委員長に聞く 女子サッカー コロナ禍の1年	41
審判委員会	
審判委員会より	42
全国サッカー選手権大会茨城県決勝を担当して	42
コロナ禍における全国大会開催～第53回全国高等専門学校サッカー選手権大会～	43
「栃木レフェリースタートアップセンター」開設	45
「栃木県に移籍してきて」	46
2021年度サッカー2級審判資格更新講習会	47
3級審判インストラクターレセンへの参加	47
サッカー3級審判員として過ごした2020シーズン	48
更なるレベルアップを目指して	50
『女子審判員募集!』	50
両立して得られること	52
栃木県フットサル審判員の拡大増員を目指して	52
技術強化委員会	
栃木県トレセンU-16活動報告	53
医事委員会	
成長期の見逃してはいけない腰痛!!	54
賛助会員・協賛	
2021年度賛助会員募集・ご芳名	56

2020年度 公益社団法人栃木県サッカー協会 各種表彰受賞者

1. 2020年度 (第48回) 太郎賞受賞者

4 種	上村 琉空	JFCアミスタ市貝
	三浦 颯太	栃木サッカークラブ U-12
	吉澤 頌裕	FCみらい
	倉部 碧希	ヴェルフェ矢板 U-12
	青木 悠真	大谷東フットボールクラブ
	馬崎 優仁	JFCアミスタ市貝
	梅澤 茉綾	ともぞうサッカークラブ
3 種	村上 竜規	栃木サッカークラブ U-15
	石川 丈慈	栃木サッカークラブ U-15
	茂木 琉貴	足利市立毛野中学校
2 種	多田 圭佑	矢板中央高等学校
	新倉 礼偉	矢板中央高等学校
	吉野 陽翔	栃木サッカークラブ U-18
	清村 陽空	栃木サッカークラブ U-18
女子	地島 愛彩	栃木サッカークラブ レディース
	齋藤 凜々衣	宇都宮文星女子高等学校

2. 2020年度 (第33回) 森山賞受賞者

中村 敦	栃木シティフットボールクラブ 監督
	全国地域サッカーチャンピオンズリーグ2020 第3位
	第54回関東サッカーリーグ1部 優勝
高橋 健二	矢板中央高等学校サッカー部 監督
	第99回全国高校サッカー選手権大会 第3位

3. 2020年度 (第38回) 協会長賞受賞者

【団体】

栃木シティフットボールクラブ
 全国地域サッカーチャンピオンズリーグ2020 第3位
 第54回関東サッカーリーグ1部 優勝

矢板中央高等学校サッカー部
 第99回全国高校サッカー選手権大会 第3位

【個人】

福島 尚 永年にわたり足利市サッカー協会の役員として、協会の発展に貢献された。

4. 2020年度 感謝状

【団体】

宇都宮アート&スポーツ専門学校
 本県で開催した皇后杯JFA全日本女子サッカー選手権大会の場内
 放送にご協力をいただいた。

【個人】

(故) 関 一 夫 県協会に多額の寄付金をいただき、協会の発展と充実に貢献された。

ミッションファイル

公益社団法人 栃木県サッカー協会の理念

公益財団法人日本サッカー協会の理念に基づき、栃木県においてサッカーの普及発展、競技力の向上に努め、サッカーを通じて栃木県民の豊かなスポーツ文化の振興及び心身の健全な発達に寄与する。

公益社団法人 栃木県サッカー協会のビジョン

1. 栃木県のサッカーの普及に努め、スポーツに親しむ環境を構築し、県民に健康と幸せを与える。
2. 競技力の向上を図り、栃木県代表チーム・選手が日本及び世界で活躍することにより県民に夢と希望を与える。
3. フェアプレーの精神を広め、人々の友好を深め、安全で豊かな社会を構築することに貢献する。

公益社団法人栃木県サッカー協会取り組み (TFAミッションファイル)

《10年後の達成目標 (TFAゴールプラン2022)》

目標項目	達成目標	活動内容	現状数値 <2020年度>
サッカーファミリーの拡大	サッカーを愛する仲間(サッカーファミリー)のうち、 <u>プレーヤー・審判員・指導者が4万人(県民の2%)</u> になる。	1. 第1種登録チームの選手登録数の拡大 2. U13~18年代の選手登録数の拡大 3. 女子の選手登録数の拡大 4. フットサル選手登録数の拡大	サッカー選手登録 14,728人 フットサル登録 490人 審判員 5,090人 指導者 2,324人 計 22,632人 県民人口 1,943,141人 県民の 1.17%
本県代表の活躍	本県代表チームが全国のトップチームとなり、本県出身選手が「 <u>日本代表</u> 」として5名以上、「 <u>Jリーガー</u> 」として40名以上活躍する。また、「 <u>国際審判員</u> 」として2名、「 <u>1級審判員</u> 」として10名以上活躍する。	1. 代表チーム強化 2. 選手の強化・育成 3. 指導者の育成 4. 審判員の育成	日本代表 0人 女子日本代表 0人 Jリーガー 33人 国際審判員 0人 1級審判員 7人
組織の確立	(公社)栃木県サッカー協会が全国及び県民より信頼の得られる組織として確立し、 <u>全国ランキングトップ10入り</u> する。	1. 組織内の連携強化 2. 組織基盤の確立 3. 実施事業の充実	全国ランキング 第28位
J1チームの創設・活用	<u>栃木SCがJ1に昇格</u> し、本県選手と県民に夢と活気を与える。	1. 連携・共存体制の確立 2. サポート体制の確立 3. 協同連携事業の実施	J2所属栃木SC
サッカー施設の充実	県内の人工芝サッカー場が <u>25面に増加</u> する。	1. 対象自治体への整備要望活動の展開	人工芝サッカー場 ・鹿沼市 1面 ・宇都宮市 5面 ・矢板市 3面 ・大田原市 2面 ・那須塩原市 3面 ・日光市 2面 ・佐野市 1面 ・小山市 1面 ・真岡市 2面 ・さくら市 1面 ・足利市 1面 ・栃木市 1面 計 23面
2022年栃木国体での大活躍	栃木国体において「 <u>総合優勝</u> 」する	1. 代表チーム強化 2. 選手の強化・育成 3. 指導者の育成	

2021年度の
TFA活動目標

- (1) アクションプランの遂行<各連盟・委員会のプランの遂行>
- (2) サッカーファミリーの拡大(グラスルーツの普及促進)
 - <プレーヤー・審判員・指導者登録数を県民の1.3%を目指す>
- (3) 各種別の本県代表チームの活躍<全国大会ベスト8以上、関東大会準優勝以上を目指す>
- (4) 三重国体でベスト4以上を目指す
- (5) J2栃木SC・関東リーグ栃木シティFCとの連携・協力体制の確立
- (6) サッカー施設の拡充<人工芝サッカー場の1面増設>
- (7) 県内各地区サッカー協会との連携・協力
- (8) 2022年栃木国体「総合優勝」に向けた5か年行動計画の推進
- (9) TFA創立75周年記念事業の実施 <記念試合の実施(6月開催予定)>
- (10) 財政の健全化<新たな収入源の確保>

2021年度 アクションプラン

1. 第1種委員会：社会人連盟

<p>2021年度の活動目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全国社会人サッカー選手権大会を円滑に運営する。 ・県内リーグチーム強化。 ・各種大会の運営力の向上。 ・栃木国体に向け三重国体へ出場する。 ・県1部リーグから関東リーグへのチーム昇格 ・トーナメント大会参加チーム数を継続する取り組み ・新規チーム数を増やすための取り組み ・登録チーム内のC級・B級指導者を増やす取り組み ・登録チーム内の3級審判員を増やす取り組み (2022年度から1部リーグチームへの帯同義務化を目指す) ・新型コロナウイルス感染症拡大防止への取り組み <p><数値目標> 三重国体で成年男子チームがベスト4になる。 登録チーム内の指導者・3級審判員を1名以上増やす</p> <p><スローガン> チーム社会人(1種)の取り組み</p>
<p>2021年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県内大会の活性化(3部決勝大会参加チーム数の見直し) ・全国大会の運営 ・Jチーム・関東リーグチームとの連携による国体チーム及び県内チームの強化 ・MC資格保有役員はマッチコミッショナーを2試合以上担当する。 ・県協会・他種別と共同で事業を実施し新規・継続選手数を増やす。 ・トーナメント大会参加数継続のためのサポート活動 ・県内上位リーグから指導者・3級審判員を増やす活動を実施する。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底し安全な大会運営を行う。 ・国体成年男子チームの強化練習会を月に1回以上行う。
<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全国社会人サッカー選手権大会。 ・全国社会人サッカー選手権大会関東予選 ・国体関東ブロック大会 ・県内トーナメント大会・リーグ戦 ・J2・関東リーグチームとの連携・協力

2. 第2種委員会：高校連盟

2021年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高校サッカーの活性化（男女） ・本県代表校の活躍（男女） ・栃木県ユースサッカーリーグU-18の活性化
	<p><数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> 部員数 3,000人 関東大会・全国大会優勝
	<p><スローガン> サッカー環境の整備（気持ちよくサッカーができるように）</p>
2021度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 （*新規事業も含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理体制の充実 ・全国高校サッカー選手権大会栃木大会 ・審判員の充実 ・栃木県ユースサッカーリーグU-18のよりよい運営 ・本県代表の関東・全国大会入賞 ・プレミアリーグ・関東プリンスリーグへの参入 ・とちぎ国体に向けた大会運営能力の向上
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・審判研修会及び講習会の開催 ・高校連盟の試合途中経過・結果速報 ・各大会における技術・記録係等の研修 ・本県代表の全国大会入賞及び関東プリンス運営の協力体制づくり ・ユース審判員の育成及び活用

3. 第3種委員会：中学連盟

2021年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・競技環境の充実 ・指導者の質の向上
	<p><数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ①U-15リーグに90%以上のチームの参加 ②公認A級、B級、C級コーチおよびインストラクター養成講習会への参加5名以上 ③M4による指導者講習会への参加率85%以上 ④マッチコミッショナー・ウェルフェアオフィサーの10名以上の養成
	<p><スローガン> より良い育成環境を目指して</p>
2021度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 （*新規事業も含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・リーグ戦を軸とした年間カレンダーの見直しとリーグ再編 ・指導者養成事業及び指導者研修 ・各種大会レギュレーションの見直し
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・U-15リーグ （1部リーグ・2部リーグ・3部リーグ・4部リーグ） ・公認A級、B級、C級コーチおよびインストラクター養成講習会 ・各地区での指導者講習会 ・マッチコミッショナー・ウェルフェアオフィサー養成講習会

4. 第4種委員会：少年連盟

2020年度の活動目標	<p>【事務局】①新型コロナウイルス感染症に対応した連盟運営の推進</p> <p>【競 技】①選手育成・技術力向上を視野に入れた、各種大会の企画 ②地区予選・県大会・上位大会関係業務の円滑な遂行</p> <p>【地 域】①選手育成を視点としたトップリーグ・地域リーグの充実 ②7地区の少年連盟と県少年連盟との意思疎通のためのパイプ役としての円滑な業務の遂行 ③登録チーム、登録選手の増加</p> <p>【技 術】①関東・全国レベルで通用する選手の育成 ②地区トレセン指導者の育成とレベルアップのための研修会の開催</p>
-------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<ul style="list-style-type: none"> ③県トレセンと地区トレセンとの連携強化 ④審判委員会との連携 ⑤女子の指導者養成 【審判】①3級審判員の増員と育成を図る。 ②3級インストラクターの活動の場を増やす。 ③他種別でも活動できる派遣審判員の増員を図る。 【記録広報】①正確な情報を迅速に提供 【女子】①女子選手の積極的育成 ②女子だけのチームを増やすこと
	<p><数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> 【地域】各種申込書提出締め切り日の厳守 【技術】関東選抜大会ベスト4以上 ナショナルトレセン10名選出 【審判】3級審判員10名以上の増員（昇級）
	<p><スローガン> 【技術】 日常を変えよう 【審判】 基本に忠実に 【記録広報】 正確に・迅速に・効率よく</p>
<p>2021度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 【事務局】①新型コロナウイルス感染症対策の継続 【競技】①各種文書の発送、受信の厳正 ②選手育成・技術力向上を視野に入れた、計画的な年間プログラムの作成と大会企画・運営 ③WEB等を積極的に活用した大会運営 【地域】①トップリーグ・地域リーグ・地区予選大会の円滑な運営 ②地区トレセンと県トレセンとのパイプ役 ③各地区から出た意見の県少年連盟への吸い上げ ④各委員会事業への協力 ア 競技運営委員会（県大会会場確保） イ 技術強化委員会（県トレセン） ウ 審判委員会（4級更新講習会） エ 広報委員会（地区及び県大会結果の報告） オ 女子委員会（県トレセンへの推薦） 【技術】①県トレセン活動の充実 ・年間指導計画の継続的検討と検証 ・トレーニングの質の向上 ②地区トレセンとの合同開催や指導協力 ③指導者の質の向上 ・指導者研修会の設定 ・県技術委員のB級取得促進 ④審判との連携によるたくましい選手の育成 ⑤女子の指導者養成 【審判】①3級審判員の昇格に向けたサポートを充実する。 ②各種講習会や研修会で3級インストラクターが講義や実技を担当する機会を増やす。 ③リーグ戦や各種県大会への審判員と指導者の派遣。 【記録広報】①大会運営者・企業との円滑な情報連携 ②インターネットを活用した効果的な情報共有の効率化 【女子】①女子選手の育成事業の開催 ②トレセン女子活動の活性化
<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<ul style="list-style-type: none"> 【競技】①計画的な年間プログラムの作成と大会企画・運営 【地域】①地域委員会の定期的開催（年12回開催） ②トップリーグ・地域リーグ・地区予選会の運営 ③各種県大会の運営協力 ④地区の優秀な選手の発掘 ⑤他の委員会への協力 ⑥地区の理事会の活性化 【技術】①県トレセンと地区トレセンの合同開催 ②ナショナルトレセン研修会への参加促進 ③関東女子トレセンマッチデー、MTMトレセンマッチ、ナショナルトレセン選考会、ナショナルトレセン、キャンギャルズエイト、関東選抜大会

	<p>【審判】①各地区との連携を密にし、審判研修会を計画的に実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3級審判員研修会（3級審判員のうち希望者） ・ インストラクター研修会（3級インストラクター） ・ 3級昇格に向けた研修会（3級昇格希望者） <p>② 3級審判インストラクターによる指導の場を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県トップリーグ ・ 新規4級審判資格取得講習会 ・ 上記①の各種研修会 <p>③ 他種別・他事業と連携し、審判員を派遣・参加できる機会を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県社会人リーグなど（1種） ・ 高校サッカー選手権大会（2種） ・ 下野杯（3種） ・ レフェリースタートアップセンター
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

5. 女子委員会：女子連盟

2021年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ トレセン制度の充実・強化 ・ 競技人口の拡大 ・ 指導者の育成 ・ 女性審判、ユース審判の育成 3級新規審判員の発掘 ・ JFA普及コーディネーターの活用 ・ ゲーム環境の整備
	<p><数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 競技人口50名増 ・ 女性指導者D級10名・C級10名増 ・ 女性2級審判員1名、3級審判員3名増 ・ なでしこひろば開催団体3団体増
	<p><スローガン> 未来に繋げる！</p>
2021年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 （*新規事業も含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・ U-13～16トレセン活動の充実・強化 国体少年女子選抜チーム（2022年）を見据えた取り組み ターゲット年代の強化策 U-17～国体成年女子選抜強化 ・ 普及事業 グラスルーツやフェスティバルから女の子や女性が身近にサッカーが楽しめる環境を増やす。（例：JFAなでしこひろばの活用） ・ 審判トレセンの充実と底辺拡大 県リーグ等を利用して審判トレセンの充実を図る。ユース審判を含めた底辺の拡大 ・ 新規MCの発掘 審判インストラクターの発掘
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・ トレセン女子U-13～16 ・ U-12女子トレセンとの連携 ・ グラスルーツ ・ ガールズ・レディースフェスティバル ・ 審判トレセン、チーム帯同審判研修会

6. クラブユース連盟

2021年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関東リーグへの進出（各年代別強化） ・ 帯同審判の質の向上 ・ 全国大会（クラブ選手権・高円宮杯）への出場
	<p><数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関東大会でのベスト8以上 ・ 全国大会への出場
	<p><スローガン> 未来を担う選手たちと共に！ （高めあい・競い合い・認め合う）</p>

2021年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・ U-15リーグを含めU-14の強化 ・ リーグ戦・ベスト8までの帯同審判の向上 ・ 栃木国体に向けて、U-15・14の強化
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・ U-15リーグ・U-13リーグ（関東・県） ・ 帯同審判の講習会

7. シニア委員会：シニア連盟

2021年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ シニア連盟の組織化（各年代） ・ 未登録チームの登録及び参加 ・ 選手の協会登録強化（各年代） ・ 関東大会の大会運営 ・ 全国大会予選会の突破 ・ JFA第20回全日本O-50サッカー大会の栃木県開催
	<p><数値目標> 各年代（O-40・O-50・O-60・O-70）の全国大会出場</p>
	<p><スローガン> 各年代での関東大会を突破し全国大会出場</p>
2021年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・ シニア連盟の組織の強化 ・ シニアリーグの活性（各年代40、50、60） ・ KTFA第9回関東O-70サッカー大会の開催、大会運営 ・ JFA第20回全日本O-50サッカー大会の開催、大会運営 ・ シニアチームの各年代の関東予選会の突破し全国大会出場を目指す。
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・ シニア委員会の各年代及び地域の役員メンバー選出 ・ シニアサッカー選手権大会（O-40, O-50, O-60）5月・8月9月 ・ シニアサッカーリーグ（O-40, O-50, O-60）4月～3月 ・ JFA第20回全日本O-50サッカー大会の開催 6月 ・ KTFA第9回関東O-70サッカー大会の開催 7月

8. 技術強化委員会

2021年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2022栃木国体+10年を視野に入れた諸事業の実施 ・ トレセン活動のさらなる充実と指導者間の連携 ・ 栃木TSG(テクニカルスタディグループ) データ活用
	<p><数値目標> 関東トレセン大会各種別Aクラス入り</p>
	<p><スローガン> 全県一致</p>
2021年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国体強化策の具現化 成年男子：2022国体チームの決定。 選抜チームか、単独チーム化の決定。それに伴う監督・スタッフ体制の決定。 女子：成年選抜チームの発足、栃木SCとの連携 隔年強化の具体策の作成。 少年選抜チーム作りに向けての具体的アクション 2022年ターゲット年代の強化、及び強化事業の決定。 少年男子：U-16早生まれ及びU-15県トレセンの強化 2022年ターゲット年代の強化、及び強化事業の決定。 ・ トレセン改革 県トレセンの行い方の見直しと実践（より充実したものにするために） ・ 各種別の指導者養成及び指導者の掌握 若い指導者の育成とネットワークの形成 若手指導者の養成・強化 県内B級コースの開設

	<ul style="list-style-type: none"> ・テクニカルスタディグループの活用及び指導者への還元 県内TSGレポートの作成。予算化。 ・各種連盟や委員会との連携、そのための技術委員会組織の再編。
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・U-16早生まれ・15県トレセン強化策 ・U-16女子トレセンのサポート ・新型コロナウイルス感染症に対する感染拡大防止対策をしっかりと行い、選手たちの活動機会を確保するとともに、より効果的なトレセン活動を充実していく。

9. フットサル委員会：フットサル連盟

2021年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・関東リーグへの進出 ・全国大会への出場 ・フットサルの普及 ・審判員の養成 ・会場の確保
	<p><数値目標> 関東リーグへの進出（関東2部、関東女子） 各カテゴリでの全国大会出場</p>
	<p><スローガン> 栃木のフットサルの競技力の向上と普及・振興</p>
2021度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ol style="list-style-type: none"> ①男女栃木県リーグの競技の充実 ②各年代におけるフットサル大会の運営の充実 ③U-23年代以下の育成・強化 ④普及事業の情報の発信の工夫と促進 <ul style="list-style-type: none"> ・ファミリーフットサルフェスティバル ・オープンフットサル大会 ・施設交流大会 ⑤県内におけるフットサルのPR（県協会HP） ⑥審判員の育成 ⑦新規役員の発掘、育成と組織の充実
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ol style="list-style-type: none"> ①栃木県フットサルリーグ ②全日本フットサル選手権栃木県大会 ③全国選抜フットサル大会 ④栃木県女子フットサルリーグ ⑤全日本女子フットサル選手権大会栃木県大会 ⑥全国女子選抜フットサル大会 ⑦年代別各カテゴリー（大学、U-18、U-15）のフットサル大会 ⑧各種普及イベントの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ファミリーフットサル ・オープンフットサル大会 ・施設交流大会 ⑨審判講習会の実施

10. 審判委員会

2021年度の活動目標	<ol style="list-style-type: none"> ①国体に向け、審判員の増員、レベルアップを図る。また、実働の審判員だけでなく、インストラクターを中心に大会を運営できるスタッフの育成を目指す。 ②審判トレセンは毎月1回第3日曜日（フィールドトレーニングは第3土曜日）に固定し実施する。講義形式だけでなく、フットボールセンターを利用して、実技研修（プラクティカルトレーニング）を実施する。 ③スタートアップセンターを軌道に乗せる。その場を3級インストラクターの活躍の場としても有効に活用し、指導者の資質向上、審判員の底辺の拡大・底上げを目指す。 ④大学生向けの講習会を実施し、即戦力の審判員育成を図り始めた。今後も継続し、国体でサポートができるような大学生を育成する。 ⑤シニア、フットサルにおいても限られた人材・予算であるが、改善を目指し、各大会・講習会をスムーズに運営する。 ⑥ユース審判員の育成を図る。
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p><数値目標> ①審判員登録数を1級:7名、2級:60名、3級:500名、女子2級:4名 3級:6名 ②4級:4500名、フットサル:600名、女子審判員:180名を目標に育成する。 (中期、長期)</p>
<p>2021年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)</p>	<p><スローガン> THE CHALLENGE TO REFEREE FRIEND'S DREAM (審判仲間の夢への挑戦) 十河</p> <p>(1種) ①3級審判員の拡大 県社会人リーグ参加チームから3級審判員を育成し、チーム登録審判員に3級審判員の登録拡大を図る。 ②3級審判員研修会の実施 3級審判員を対象にした実技研修会を開催して技術向上を図る。 ③3級インストラクターの新規増員 チーム登録審判員及び派遣審判員への助言・指導の機会を増やす。</p> <p>(2種) ①4級ユース審判員の更新の定着を図る。 ②ユース審判員の育成を充実させる。特にユース3級審判員の増加と、国体に向けてレフェリースクール卒業生の2級審判員昇級と育成を図る。 ③若手顧問の指導・育成を図る。</p> <p>(3種) ①審判研修会の充実 ・参加者の拡大と内容の充実を図る。 ・地区別研修会(年1回以上)の実施(計画・報告書の提出) ・インストラクターの活用 ②若手審判員の発掘と育成 ・多種別との交流を図る。 ・上級審判員の育成(2級審判員・3級審判員の増員) ・3級審判員と3級インストラクターの増員</p> <p>(4種) ①3級審判員の増員と育成を図る。 ②3級インストラクターの活動の場を増やす。 ③他種別でも活動できる派遣審判員の増員を図る。</p> <p>(女子) ①2級審判員2名、3級審判員2名の増員を図る。 ②ユース向け女子審判トレセン年2回実施。 ③3級審判向け競技規則研修会の実施。 ④チーム帯同審判員の実技研修会の実施。 ⑤公式戦決勝を女子審判員4名で実施。</p> <p>(シニア) ①各チームに、審判資格取得者を4名以上確保する。そのうち、1名以上3級以上の審判員を確保する。 ②シニアの各カテゴリー(0-40から0-60まで)において、最新のルールを正しく理解させ、年1回以上研修会を行う。</p> <p>(クラブ) ①派遣審判員として活動できる人材を発掘する。 ②中体連と合同の4級審判資格新規取得講習会を開催する。 ③3級を目指す4級審判員を発掘し、指導育成する。 ④チーム帯同審判員を集めた審判研修会を実施する。 ⑤組織の若返りを図る。</p> <p>(フットサル) ①実働審判員の確保 ②フットサル審判員の能力向上 ③上級審判員候補の発掘</p> <p>(指導・育成・インストラクター) ①レベル合わせ実施と新アセスメントレポート様式導入。 ②計画性を持ったアセッサー割当ての実施 ③インストラクタースキルの修得及びアセッサー任務の義務化 ④2級昇級候補者の強化 ⑤レフェリースタートアップセンターによる4級審判員育成</p>

	<p>(割当部)</p> <p>①Kick offサイトの継続的有効活用 インターネットやスマートフォン等を活用して審判員、インストラクターのスケジュール情報を共有し、効率の良い審判割当、アセッサー割当を行う。 Kick offシステムでの審判割当を継続する。また必要事項を送信するように試みる。(健康チェックシートや連絡事項など) Kick offをシステムでのアセッサー割当を検討する。(一部試合)</p> <p>②各種別の連携強化 種別の垣根を越えて協力し、様々な種別に派遣することで審判員のレベルアップに貢献する。 また、派遣審判員を対象とした研修会を開催し一体感をもって底上げする。</p> <p>③在野の審判員の発掘 級に関係なく派遣審判員を目指す人材の発掘、育成をする。 (スタートアップセンターを軸に4級を底上げできるようにし、県内でアクティブに活動できる人材を増やす活動を行う。) 県協会ホームページに掲載し、幅広く宣伝できるように工夫する。 また、各種別からも積極的に活動したい方を呼びかけるようお願いをする。</p>
<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<p>①審判の取得・更新を積極的に図る。 ・通知等で取得・更新を啓発する。 ・登録チームに、審判員の確保を促す。</p> <p>②研修会等の充実を図る。 ・委員会でのルール研修 ・リーグ戦や選手権大会での実技研修 ・本県開催の関東大会への派遣協力</p> <p>(クラブ)</p> <p>①派遣審判員として活動できる人材及び3級を目指す審判員を発掘し、指導育成する。 ・日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会栃木県大会 ・栃木県U15・13リーグ ・高円宮杯日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会栃木県大会 ・3種リーグチャンピオンシップ ・下野杯争奪県下中学生サッカー選手権大会 ・他 各種別各大会</p> <p>②チーム帯同審判員を集めた審判研修会を実施する。 ・日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会栃木県大会 最終日</p> <p>③組織の若返りを図る。 ・新たな体制の構築</p> <p>(フットサル)</p> <p>①各種(県・地区大会)大会帯同審判員へのアプローチ 各種大会帯同審判員への技術指導 審判活動希望者募集の為の広報活動</p> <p>(県協会HPへの掲載等)</p> <p>②県リーグ担当審判員の主審技量の向上 担当審判員研修会、他県リーグ・審判交流等を通じての競技知識の向上 各種大会におけるインストラクターによる実技指導</p> <p>③F3昇級の為の育成コースの開設 F2昇級候補者の育成</p> <p>(指導・育成・インストラクター)</p> <p>①新様式アセスメントの導入のためのレベル合わせ研修会を複数回実施する。 ②各インストラクター最低3試合以上のアセスメント実施を義務化する。各種別及び各部と随時情報交換を行い、審判員育成指導の連携を図る。 ③割当部、各種別及び各部と連携を図り、アセッサーの早期割当てに努め、強化対象審判員の継続的指導を実施する。 ④インストラクタートレセンによるチュータリング・IT・アナリシス・プラクティカル等のスキル修得促進。受講の義務化等資格要件制度をあわせて検討する。 ⑤2級インストラクター昇格候補者の強化研修を実施する。 ⑥経験の浅い3級・4級審判員の育成のため、レフェリースタートアップセンターを継続開催する。 ⑦2級審判昇格候補者を中心に3級審判員の強化対策を検討、実施する。</p>

11. グラスルーツ委員会

2021年度の活動目標	<p>〈全体〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 各連盟や委員会、種別を超えて多くの人に関わり、普及事業を提供する サッカー未経験者とチーム未所属者の普及事業への参加者数の増加 普及イベントの企画（フェスティバル以外） 普及事業に関わるスタッフの増加 <p>〈キッズ巡回指導〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政との連携 指導先の拡大と受益者負担への働きかけ TOYATAとの協働による指導内容の充実 巡回指導スタッフの発掘 <p>〈フェスティバル〉（キッズ・女子）</p> <ul style="list-style-type: none"> 地区と一体となったフェスティバルの開催 地区フェスティバルの内容の充実（チーム対抗戦のみにならないような工夫、親子サッカー等の提案） JFAフェスティバルを含むフェスティバルの回数増加 他種別連携での開催 <p>〈なでしこひろば〉</p> <ul style="list-style-type: none"> とちぎフットボールセンター等を活用したなでしこひろばの開催 <p>〈キッズリーダー講習会〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学・短大・専門学校等での開催、女子登録チーム対象の開催 キッズ含む普及の重要性を発信する講習会・研修会の開催
	<p>〈数値目標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたち「延べ23,000人」との交流 サッカー未経験者「延べ500人」の参加 キッズリーダー講習会の開催（15コース、300名） 普及の重要性を発信する講習会・研修会の開催（2回） なでしこひろばの開催（10回）
	<p>〈スローガン〉</p> <p style="text-align: center;"><i>栃木サッカーの発展はグラスルーツから ～だれもがサッカーの楽しさに触れられるように～</i></p>
2021年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 （*新規事業も含む）	<ul style="list-style-type: none"> 指導者養成（キッズリーダー、キッズインストラクター等） キッズ巡回指導400回 （幼稚園・保育園100園、小学校45校） JFAフェスティバル（キッズ・女子・障がい者等）、および各地区フェスティバルでの未経験者へのアプローチと参加者の増加⇒継続へ繋げる なでしこひろばの開催により女子の小学生、中学生の登録者数増につなげる。 各地区フェスティバルのサポート（年2回以上の開催を目指す） フェスティバルの内容の充実と、関わるスタッフの増加 ユニクロキッズフェスティバルの開催に向けた準備 普及イベントの企画（フェスティバル以外） 他種別との交流事業の充実 とちぎ国体開催市町との連携による普及活動
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> JFAキッズサッカーフェスティバル JFAグラスルーツフェスティバル JFAレディースガールズフェスティバル JFAフットボールデー／女子サッカーデー ユニクロキッズフェスティバル 栃木県サッカー協会キッズプログラム巡回指導 キッズリーダー養成講習会 地区主催キッズサッカーフェスティバル 栃木SC・栃木シティFC・ヴェルフェ矢板等の巡回指導とキッズ事業への参加 キッズ研修会 なでしこひろば 障がい者サッカーフェスティバル（3回）

第100回天皇杯全日本選手権

2020年度の天皇杯第100回全日本サッカー選手権大会は、当初5月23日から開催される予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で大会方式、日程を変更し感染リスク軽減のため、9月16日に1回戦が開幕した。

本県代表として、2年連続11度目の出場を果たした栃木シティFCは、9月16日の1回戦に味の素フィールド西が丘で東京都代表の東京武蔵野シティFCと対戦し、3点リードを追い付かれた末にPK戦で敗れ、1回戦敗退となった。

本大会の1～3回戦は地域単位で行われ、5回戦までは都道府県代表とアマチュアシードのホンダFCの計48チームが登場。Jリーグ関連はJ2、J3の優勝チームが準々決勝から出場、準決勝からはJ1の1位と2位チームが登場した。決勝は2021年1月1日に国立競技場で開催。川崎フロンターレ（J1・1位）とガンバ大阪（J1・2位）の対戦となり、川崎フロンターレが初優勝し、天皇杯を手にした。

▽1回戦

東京武蔵野シティFC(東京都代表)

3(0-0、3-3、延長0-0、0-0)3
(PK5-4)

栃木シティFC

第42回皇后杯全日本サッカー選手権、 本県での開催

第42回皇后杯女子サッカー選手権大会の1回戦から準々決勝が本県で開催され、県協会主管、女子サッカー連盟の協力のもと運営を行った。

大会には、なでしこリーグ1、2部と全国の地域予選の代表を合わせた計48チームが出場。大会は11月28日に開幕し、決勝は12月29日に京都府亀岡市のサンガスタジアムbyKYOCERAで行われた。

本県では11月28日、29日の両日に真岡市運動公園陸上競技場で1回戦4試合を開催。翌週の12月5日、6日にはカンセキスタジアムとちぎ（県総合運動公園陸上競技場）で2回戦の4試合が行われ、12月12日、13日には同会場で3回戦4試合、12月19日に準々決勝2試合の実施と本県では計14試合が行われた。

なでしこリーグのチームはいずれも2回戦から登場し、本県関係の選手としては、FW安藤梢の所属する浦和レッズレディースが12月6日にカンセキスタジアムとちぎで行われた2回戦、12日の3

回戦に登場、また、DF鮫島彩が所属するINAC神戸が12月19日の準々決勝に登場し、地元凱旋ということもあり、スタジアムを大いに湧かせた。

本大会の決勝は、浦和レッズレディースと日テレ・東京ヴェルディベレーザのなでしこリーグ1部勢による2大会連続で同じ顔合わせの対戦となり、日テレが浦和に4-3で競り勝って4連覇を果たし、歴代最多の優勝回数を15とした。リーグ優勝の浦和レッズレディースは安藤梢の得点があったものの勝利することはできず初優勝を逃した。



栃木SC 田坂和昭監督ご挨拶

まず初めに2020シーズンも皆様にご声援を頂きまして、誠にありがとうございました。誰もが予想しなかったようなコロナ禍となりましたが、日頃より支えていただいている皆様のお力添えがあってこそ無事に終わられたシーズンだったと思っております。改めて感謝申し上げます。

昨シーズンは最終的に10位という結果でシーズンを終えましたが、今年はそれ以上の1桁順位を目標に戦っていきたいと思います。得点を取らなければ勝ち点を積み上げることはできないので、勝点60を取るというところを掲げて戦っております。監督としても今年は栃木で迎える3シーズン目となります。2019シーズン、2020シーズンに更に上積みをしたサッカーができるように、今年も全員で最後まで戦っていきます。皆さんにも同じ栃木県のサッカーファミリーとして今シーズンも応援していただけたら嬉しいです。

同じ県内で活動を行っているサッカーファミリーの皆さんと共に、栃木県のサッカーを発展させるために、日々前進しながら頑張っていきたいと思っております。引き続き宜しくお願い致します。



コロナ禍の2020シーズン

栃木県社会人サッカー連盟

理事長 鈴木 篤

日頃から社会人連盟の活動に、深い御理解と御支援、御協力を頂き感謝申し上げます。

2020年度は言うまでもなく新型コロナウイルスへの対応に翻弄された一年となりました。現在でも状況は収束せず2021年度以降も対策を講じながらのサッカー活動となるでしょう。新しいシーズンの前向きに取り組むためにも、昨年の活動の振り返りを残しておこうと思います。

国内での報道がされ始めた1-2月ごろは各事業や大会は明確な感染防止対策がなく、人が集まる室内ではマスクを着用するなどインフルエンザ予防程度の対策でした。（※日本で新型コロナウイルスが「指定感染症」に指定されたのは1/28）0-35が対象の日本スポーツマスターズ2020関東予選も2/8,9に千葉県で予定通りに開催されました。県内でもNEZASカップ第25回栃木県サッカー選手権大会1次予選会を2/2より実施してまいりました。

2/21にスポーツ庁より「各種スポーツイベントの開催に関する考え方について」の発信があり各事業開催の必要性を検討する段階に入りました。開催中の大会は延期としJリーグの動向などを注視しながら対応していく予定でした。しかし2/27に全国の小中高に臨時休校要請が出た時点から各会議等を延期・中止に、NEZASカップを延期に変更しました。世間でもリモートワークが浸透し始めた頃です。当初は3月末まで延期とされていたスポーツ庁の要請も更新され延期期間が延びてまいりました。

3/24には7月開催予定だった東京五輪の延期が決定され、4/6にNEZASカップを予選・本選ともに中止とすることが栃木県サッカー協会(TFA)で決定となりました。その後、4/7(火)東京などに緊急事態宣言発令、4/16(木)対象地域が全国に拡大となりチームで活動する環境は5月末まで閉ざされてしまいました。

JFAからは「【JFA】新型コロナウイルス対策」が都度発信され、自粛要請解除の対応を社会人連盟の主要理事・大会責任者でメール・Web等で協議を重ねました。6月末よりトーナメント大会の開催を目標に感染防止対策の準備を進めましたがマスクや消毒用品、体温計の不足などが起きてい

て、安全な環境で開催できるのかという不安が残りました。参加チームや審判員の皆様には毎日の検温をはじめとする健康チェックや無観客試合にご協力を頂き大会を実施することができました。（知事杯：6/28～7/19、クラブ大会：7/5～8/2）

しかし、知事杯優勝チーム『ヴェルフェ矢板』が参加する予定の第56回全国社会人サッカー選手権大会関東予選は数度の日程延期の後、全国大会中止の決定で開催無しとなってしまいました。

（6/19に鹿児島国体の延期、7/20に国体プレ大会にあたる全国社会人大会（三重県）の中止が発表された。）

県内のリーグ戦はトーナメント大会終了後からの開催に変更し、1部・2部Aリーグは前期・後期二回りのレギュレーションを後期のみかつ降格無しとして実施しました。2部Bリーグは全日程を消化できない場合は降格無しという条件付きで実施することにいたしました。（1部8/30～10/16、2部A：9/27～12/6、2部B：8/23～11/29）また3部リーグは12月末まで実施し、3部決勝大会を2021年2月末開催予定で行うこととしました。

7/4から再開したJリーグではチームに陽性者が出た場合に試合中止と厳しい処置が出ていてスポーツを行うにも緊張感が続く状況でした。県内では先に開催した大会同様に関係者・参加者の皆様には健康チェックや無観客試合に協力していただきましたこと改めて感謝いたします。

各スポーツで夏～秋に予定していた全国規模の大会が中止になる中、栃木県では11月に全国地域サッカーチャンピオンズリーグ2020一次ラウンドを下野市大松山運動公園陸上競技場で予定通りに開催（有観客で実施）することが決まりました。この大会は全国各地域を勝ち抜いた12チームが3つのグループに分かれ一次ラウンド（11/6～8：リーグ戦）を戦い、各リーグの1位と勝ち点が最も多い2位1チームの計4チームが決勝ラウンドに進出。決勝ラウンド（11/19, 21, 23）も4チームリーグ戦を行い、上位2チームに日本フットボールリーグ（JFL）に昇格する権利が与えられるとなっています。関東地域からは『栃木シティフットボールクラブ』が代表として出場いたしました。

社会人連盟では準備に向けて、第27回全国クラブチームサッカー選手権大会関東予選（群馬県：9/19～21）や続く本大会（茨城県：10/24～27）への視察を行いました。大きな大会での感染防止策に苦労している状況を教えていただきました。

TFAと連携しながら運営・感染防止対策に必要な

備品のリストアップから準備をスタート。サーモカメラなど高額な備品はJFAからも借り受けました。参加者や観客に感染者が出た場合も想定し「栃木県-新型コロナ対策パーソナルサポート」LINE公式アカウントの機能である「とちまる安心通知」QRコード付きチラシを作成し会場に配置しました。試合における補助員は県内社会人・大学チームに協力を依頼させていただきました。観客席はJリーグ等の警備経験のある業者に委託し安全確保に努めました。チームの控室は競技場外部にテントで対応、換気を考慮し外幕の一部を開放した状態で設置しました。

社会人連盟として初めて大会運営を行う競技場であつ感染防止対策を講じながらなので日々課題が出てきました。大会役員で意見を出し合い、実行することで対応して運営を行いました。大会関係者と観客を分けて入場できるように受付を配置しました。しかし想定より多くの観客が来場し、前述のQRコードチラシの枚数が不足で初日は読み取りをする際に密状態となってしまいました。また観客席もバックスタンド側芝生席のみ開放していましたが2日目以降はチラシの枚数を増やし、ゴール裏芝生席も開放し安心して観戦できるように努めました。各チームサポーターの皆様には声を出しての応援・鳴り物禁止のお願いを守っていただきながらも大会を盛り上げて頂きましたことお礼申し上げます。

参加チームやマッチコミッショナーからの要望にも応え、安心・安全を第一に対応いたしました。チームテントなどは内部が見えてしまう配置だったので2日目以降は張り方を変えて対応しました。

ただし、すべての感染防止策が順調にきたわけではなく課題も残りました。施設内のトイレが限られていてチーム、審判員、大会役員、メディア関係者のトイレを明確に区別できませんでした。レンタルで簡易トイレを増やすなどで対応できたと思います。施設内のゾーニングも不十分でコンパクトな競技場での開催が難しいことも分かりました。事前にシミュレーションの時間を作り準備すれば対応できると思われれます。試合の運営に関してはこの数年開催してきた大きな大会の成果もありよくできた印象でした。役員間の連携もスムーズになってきています。2021年の全国社会人サッカー選手権大会、2022年のとちぎ国体、2023年の全国クラブチームサッカー選手権大会開催へ手ごたえを感じるすることができました。

11/14, 15, 28, 29には第54回関東社会人サッカー大会が埼玉県で開催されました。栃木県から

は『FC CASA FORTUNA OYAMA』、『作大FC』の2チームが関東サッカーリーグ昇格を目指し出場しましたがともに1回戦で敗退し、かないませんでした。大会は準決勝から有観客での開催予定でしたが感染者増加の傾向を考慮し無観客のまま実施されました。(11/19感染者数が東京都で初めて500人超える。)

12月の理事会では、毎年新年を迎えた1月にホテル東日本宇都宮にて開催している県リーグ表彰式は中止とし各運営委員会での対応とすることになりました。チーム・選手・審判員の活躍を称える場でしたので残念です。また、同様に2021年度の登録説明会も中止を決定いたしました。各チームにはご不便をおかけいたしますがご理解いただければ幸いです。

直近では2/21, 28で開催を予定していた3部決勝大会も栃木県に再び緊急事態宣言が発出されてしまい延期の判断をいたしました。参加者の準備を考慮して3/7, 14で開催を予定しています。広報誌が発行される頃には無事終了していることを望みます。

全世界的に発生した新型コロナウイルス感染症は私たちの生活を大きく変えてしまいました。サッカーのある日常がどれほど心や身体を健康で豊かにしてくれていたかを考えさせられる1年となりました。今後も皆様と安心・安全にサッカーに取り組めるように社会人連盟一丸となって活動を続けます。改めて関係する皆様のご協力とご理解をお願い申し上げます。

2021シーズンに向けて

栃木シティフットボールクラブ 若林 学

日頃より、栃木県サッカー協会、ホームタウンである栃木市及び栃木県南地域のみなさまには当クラブの活動に対し、深いご理解とご支援、ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

昨シーズンはコロナの影響でリーグ戦の前期は中止、後期9試合のみの短期決戦となりましたが、難しい状況の中優勝を勝ち取る事ができた事は大きな自信となりました。全国地域SCLでも1次ラウンドを下野市大松山運動公園で行い、大勢の方々の応援により3戦全勝で1位通過、決勝ラウンドは1勝2分と負けはなかったものの、2位以上の昇格の条件には届かず3位となり、JFL昇格の切符をあと一步のところをつかみ取る事はできませんでした。昇格の難しさを改めて思い知らされた

シーズンでした。

今シーズンはより厳しい条件の中での戦いになりますが、シティは進み続けます。目標はJFL昇格以外にありません。中村監督の続投、新たにコーチには昨シーズンまでチームの中心選手として活躍してくれた高地系治が加入しました。選手は18名が契約を更新し、新加入選手には元日本代表の工藤浩平、Jリーグでも実績がありシティに在籍経験もあるジョン ガブリエルと補強にも成功。目標達成の為の準備は整いつつあります。

サッカー専用の新スタジアム『CITY FOOTBALL STATION』も完成し、ホームゲームの全11試合を行う事が決定しています。昨シーズン味わった悔しさを誰も忘れてはいません。今シーズンの最後に、昨シーズンの分も笑える為にシティに与えられた試練だったと思っています。

開幕は4月3日(土)14時キックオフです。昨シーズン積み上げたものをさらに積み上げ目標を達成します。その為には皆様の応援が必要です。コロナ禍の中ではありますが、是非、スタジアムに足を運んでいただき共に戦っていただけたらと思います。

最後になりましたが、栃木シティフットボールクラブはまだこれからクラブです。大勢の人に知ってもらい、地域の皆様と共にJリーグ入りを目指していきたいと思っています。ふれあいの機会を増やし、地域との絆を強固にしながら、サッカーを通して栃木県南地域の活性化に取り組んで行くことはもちろん、これまでと変わらず皆様に『夢・希望・感動』を与え続けられるようなサッカークラブを目指して参ります。

引き続き、ご指導とご支援、ご声援の程、宜しくお願い致します。



FC CASA FORTUNA OYAMA

監督 鯨岡佑太
選手兼ホームタウン営業 脇本大我

日頃よりホームタウンである小山市をはじめとする、地域の皆様から多くのご支援、ご協力をいただきまして、心より厚く御礼申し上げます。

また、昨年はコロナ禍の厳しい中、公式戦開催に尽力されました栃木県サッカー協会、社会人連盟、各大会運営に関わる全ての皆様方に厚く御礼申し上げます。

さて、クラブは昨年の県リーグにて大会5連覇を達成しました。

クラブとしては、リーグ戦5連覇は喜ばしいことでもあります。裏を返せば、県リーグを優勝した数だけ、地域リーグに上がれなかったという不名誉なことでもあります。

昨年は新型コロナウイルスの影響で、リーグ戦は1回戦方式、クラブとして目標の1つとして掲げていた”天皇杯本戦出場”の夢は、栃木県サッカー選手権大会の中止で叶わず。また、3連覇中だった栃木県知事杯は、準決勝敗退とクラブとしても難しいシーズンでありました。

また、緊急事態宣言により、練習ができない環境が続いていた中で、地域に対するクラブのあり方を考えるきっかけになった年でもありました。そんな中、選手たち自らクラブとして何ができるかを考え、選手たちは行動を起こしていきました。FC CASAの選手たちによる家で出来るトレーニング動画『カザトレ』の発信や無観客試合のため、試合を観戦できない方達に向けた試合のライブ配信、スポンサー様の協力を得て、FC CASAの事務所にて消毒液の無料配布などを行ってきました。その中で、クラブに対する熱いメッセージをくれた方たち、ライブ配信試合を観て応援してくれる方たちがたくさんいること、改めてこのクラブは多くの方たちに支えられているのだと実感しました。

選手、アカデミー、スタッフ、スポンサー様、サポーター、そしてFC CASAに関わる全ての人たちを総称して『CASAファミリー』と呼び、クラブとして『小山に世界一の家族を』、『#マチを赤く染めよう』をチームスローガンに掲げ、これまで以上に熱い気持ちを持って

CASAファミリーの皆様と共に闘っていきます。そして、昨年まで監督を務めた田中真二に代わり、小山市出身である鯨岡佑太が監督に就任し、生ま

れ育った小山市をスポーツの力で盛り上げていきたいという思いと、これからの未来を担う子供たちと地域住民の方々に対して、FC CASAというクラブが夢と笑顔を提供し続けられるよう、今年から監督として励んでいきます。

クラブとして、CASAファミリーの皆様にご恩返しは、クラブ史上初となる“天皇杯本戦出場”と“関東リーグ昇格”であり、FC CASAが輝く瞬間こそが最高の恩返しだと思っています。必死に闘い、大人になっても夢を追い続ける選手たちを是非会場でご覧になってください。

今年関東昇格戦への出場枠が1チームになり、例年より厳しいリーグの戦いになることは間違いありません。まずはリーグ戦を制して、11月の昇格戦に挑みたいと思っています。

今シーズンもFC CASAをよろしくお願いたします。



作新学院大学サッカー部の活動について

部長 齊藤 麗
監督 堀田 利明

【昨年度の大会結果について】

作新学院大学サッカー部（以下、作大サッカー部）は、「応援される人になるべく」、「献身」というスローガンを掲げ、練習に励んでおります。作大サッカー部は、北関東大学サッカーリーグに所属しているトップチーム、インディペンデンスリーグ2020関東1部に所属しているIリーグチーム、栃木県社会人サッカーリーグ1部に所属している作大FCという3つのカテゴリーから構成されております。昨年度は、新型コロナウイルス感染症が拡大したことから、すべてのカテゴリーにおいて、変則的なリーグ戦となりました。

トップチームは、北関東大学サッカーリーグにおいて全勝し、関東大学サッカー大会（以下、入替戦）に出場しました。入替戦では、リーグ戦において東京学芸大学に勝利をおさめたものの、東海大学に敗北を喫してしまい、目標である関東大学サッカーリーグ2部には、一步及びませんでした。しかしながら、アミノバイタルカップ2020第9回関東大学サッカートーナメントでは、関東大学サッカーリーグ1部に所属する国士舘大学にPK戦の末、勝利をおさめることができました。また、Iリーグチームは新型コロナウイルス感染症拡大のため、不規則なリーグ戦となりました。リーグ戦においては、1位で通過しましたが、全国大会出場をかけた一戦で敗北を喫してしまい、全国大会に出場することは叶いませんでした。そして、作大FCはリーグ戦においてFC CASAに敗戦しましたが、最終戦となったヴェルフェ矢板戦では、見事勝利をおさめ、本学初となる関東社会人サッカー大会（通称、入替戦）に出場しました。入替戦では、東京国際大学に惜しくも敗れてしまい、悔しい一戦となりました。

【来年度に向けて】

来年度も、「応援される人になるべく」、「献身」というスローガンを掲げました。トップチームは、関東大学サッカーリーグ2部昇格を目指しております。そのために、北関東大学サッカーリーグ戦では全試合、無失点を目指しております。また、アミノバイタルカップにおいても、関東大学サッカーリーグ1部に勝利をおさめるのみならず、総理大臣

杯への出場も目指しております。Iリーグチームは、全国大会出場を目指すとともに、トップチームに昇格する人材を育てることを目標としております。作大FCは、栃木県社会人サッカーリーグ1部において優勝し、関東社会人サッカーリーグ2部昇格を目指しております。

以上の目標を達成するためには、人間力とチーム力の「深化」が必要とされております。したがって、サッカーのみならず、日常生活から改善し応援されるチームになりたいと考えております。

第2種委員会・高校連盟

高校連盟より

栃高体連サッカー専門部委員長(男子)
臼井 紀仁

今年度は、新型コロナ感染症拡大の影響により、高体連主催大会(関東大会予選、全国総体予選、新人大会)が全て中止となりました。特に、関東大会・全国総体を高校サッカーの集大成としていた3年生の選手にとっては、選手や関係者の安全を考慮した上での決断とは言え、成果を発表する場を失った悔しさは筆舌に尽くし難いと思います。

一方、県協会主催のユースリーグ栃木と選手権栃木大会については、選手や関係者の方々のご尽力により、感染防止対策を徹底しながら、何とか実施することができました。

高円宮杯TFA U-18ユースリーグ栃木

例年4月に開幕するユースリーグは、9月からのスタートとなりました。プレミア・プリンスリーグの大会方式変更に伴い、最終順位による上位・下位リーグとの昇降格をしないこととして実施しました。選手登録や交代人数、試合時間等についても変更を加え、選手の安全を第一に考えて運営に当たりました。また、感染拡大防止の観点から、観戦者はチーム関係者のみに制限しました。未実施の試合も一部ありましたが、12月までにはほぼ予定通り実施することができ、コロナ禍の中で選手たちに公式戦の場を与えることができたと感じています。

全国高校サッカー選手権栃木大会

これまで8月に一次予選を実施していた選手権栃木大会ですが、猛暑の中での選手の安全に配慮し、今年度から一次予選を実施せず、全校が参加する

トーナメント大会としました。ユースリーグ同様、感染予防対策を講じた上での開催となり、観戦者についても引き続き制限を設けました。毎年、多くの高校サッカーファンに支えていただいている大会であり、苦渋の決断ではありましたが、皆様のご理解とご協力の下、無事に大会を運営できたことに感謝申し上げます。

今大会ではとちぎテレビ様にご協力いただき、1回戦から準決勝まで、ネット中継を実施しました。それぞれ1会場ずつの放送ではありましたが、会場で観戦できない多くの方々に選手たちの懸命なプレーを伝えることができたかと思えます。また、高文連放送部会様にもご協力いただき、放送部に所属する高校生が実況、対戦校の選手やマネージャーが解説をそれぞれ担当する、高校生による試合中継という形式で行われました。

決勝戦は、2年連続PK方式での決着となりました。昨年度全国大会ベスト4に進出した矢板中央が、初優勝を目指す宇短大附属をPK方式の末に下し、苦しみながらも4年連続11回目の全国大会出場を果たしました。



全国高校サッカー選手権大会

今年度、唯一の全国大会となった第99回全国高校サッカー選手権大会。矢板中央は2回戦から登場し、徳島市立、東福岡を共にPK方式で退けました。特に3回戦の東福岡戦では、苦しい展開が続きましたが、伝統の堅守で守りきり、本県代表5大会連続のベスト8進出を果たしました。さらに準々決勝では富山第一を2-0で下し、矢板中央は2大会連続4度目のベスト4進出となりました。準決勝では青森山田に敗れ、念願の決勝進出には一步届きませんでしたが、サッカーに限らず様々な大会やイベントが中止となる中、矢板中央の選手たちの前向き

に戦う姿は、栃木県民に力を与えてくれました。

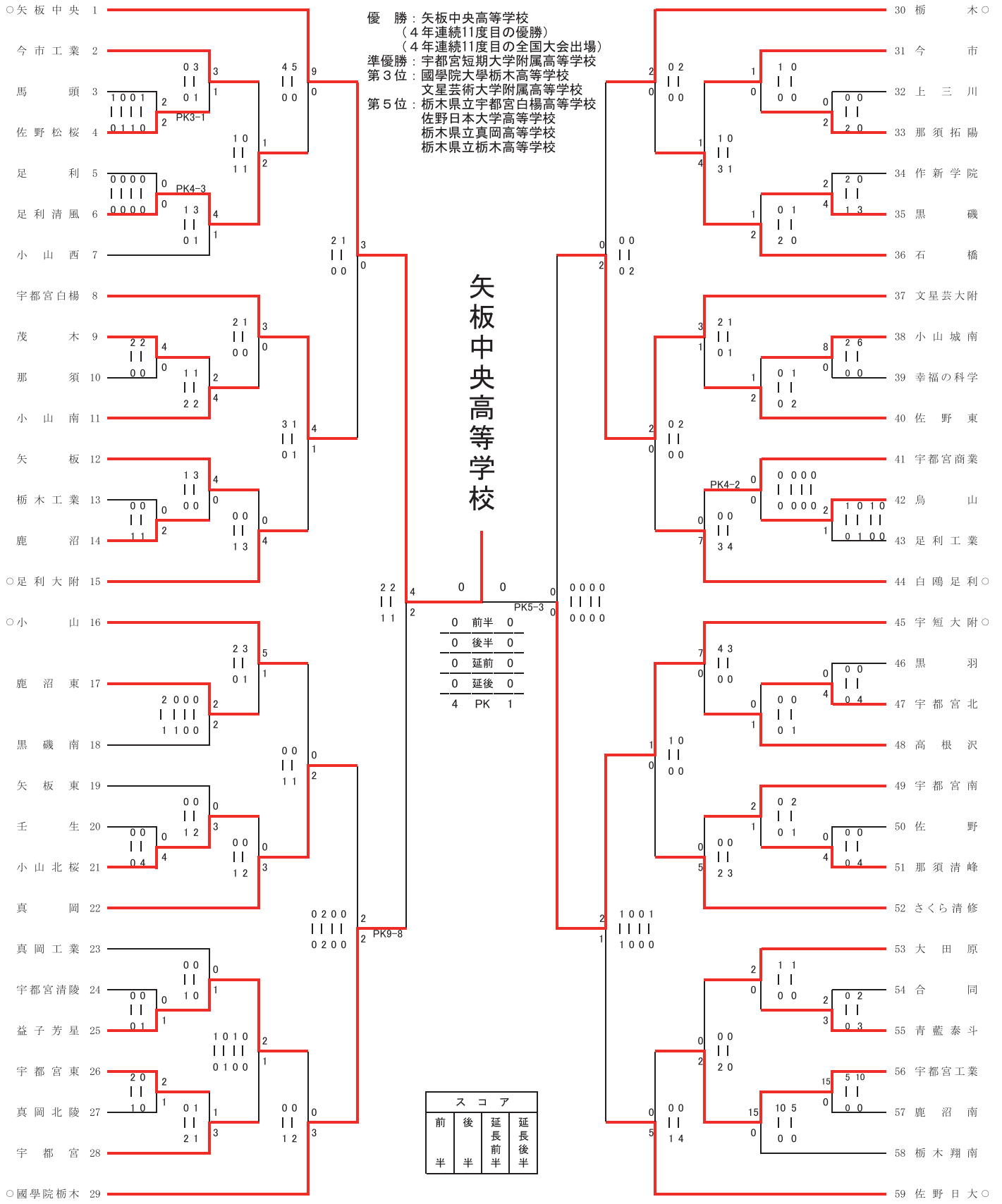
おわりに

今まで経験したことのない混乱の中、関係者のご尽力のおかげで、何とか選手権大会等を開催することができました。来年度も、新型コロナウイルス感染症の影響下で各大会を実施していくことが予想されます。選手や関係者の安全を第一に考え、十分な対策を講じながら大会運営をしていきたいと思えます。関係する方々には引き続きご理解とご協力をよろしくお願い致します。



令和2年度 第99回全国高等学校サッカー選手権大会 栃木大会 結果

令和2年10月14・17・24・31日 11月3・7・14日



高円宮杯U-18サッカーリーグ2020 結果表

1部

	矢板中央B	白鷗足利	宇短大附	佐野日大	真岡	宇都宮白楊	さくら清修	栃木	文星芸大附	栃木SCユース	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点差	順位
矢板中央B	-	3 0 0	2 0 1	2 0 0	4 0 0	5 0 1	1 Δ 1	1 0 0	6 0 0	- -	22	7	- 1	0	24	3	21	1
白鷗足利	0 ● 3	-	2 0 1	0 ● 1	0 ● 1	3 0 2	4 0 0	4 0 1	6 0 1	- -	15	5	0	3	19	10	9	2
宇短大附	1 ● 2	1 ● 2	-	2 0 1	1 Δ 1	3 0 1	6 0 2	6 0 0	- -	- -	13	4	1	2	20	9	11	3
佐野日大	0 ● 2	1 0 0	1 ● 2	-	0 Δ 0	0 ● 1	1 0 0	3 0 0	8 0 0	- -	13	4	1	3	14	5	9	4
真岡	0 ● 4	1 0 0	1 Δ 1	0 Δ 0	-	1 Δ 1	5 0 1	0 Δ 0	2 0 0	- -	13	3	4	1	10	7	3	5
宇都宮白楊	1 ● 5	2 ● 3	1 ● 3	1 0 0	1 Δ 1	-	0 ● 1	1 Δ 1	4 0 1	- -	8	2	2	4	11	15	-4	6
さくら清修	1 Δ 1	0 ● 4	2 ● 6	0 ● 1	1 ● 5	1 0 0	-	2 0 0	2 Δ 2	- -	8	2	2	4	9	19	-10	7
栃木	0 ● 1	1 ● 4	0 ● 6	0 ● 3	0 Δ 0	1 Δ 1	0 ● 2	-	2 0 1	- -	5	1	2	5	4	18	-14	8
文星芸大附	0 ● 6	1 ● 6	- -	0 ● 8	0 ● 2	1 ● 4	2 Δ 2	1 ● 2	-	- -	1	0	1	6	5	30	-25	9
栃木SCユース	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	-	0	0	0	0	0	0	0	-

2部A

	矢板中央C	佐野日大B	宇都宮白楊B	小山	宇都宮南	佐野東	真岡工業	国学院栃木	矢板東	栃木SCユースB	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点差	順位
矢板中央C	-	2 Δ 2	6 0 0	5 0 1	8 0 0	3 0 1	3 0 1	5 0 0	6 0 0	- -	22	7	1	0	38	5	33	1
佐野日大B	2 Δ 2	-	3 0 0	0 ● 1	2 0 0	- -	4 0 0	1 Δ 1	7 0 0	- -	14	4	2	1	19	4	15	2
宇都宮白楊B	0 ● 6	0 ● 3	-	2 0 0	1 ● 2	4 0 0	2 Δ 2	2 0 0	1 Δ 1	- -	11	3	2	3	12	14	-2	3
小山	1 ● 5	1 0 0	0 ● 2	-	3 ● 4	1 ● 2	2 0 0	1 Δ 1	4 0 1	- -	10	3	1	4	13	15	-2	4
宇都宮南	0 ● 8	0 ● 2	2 0 1	4 0 3	-	4 0 2	1 Δ 1	- -	0 ● 2	- -	10	3	1	3	11	19	-8	5
佐野東	1 ● 3	-	0 ● 4	2 0 1	2 ● 4	-	1 ● 3	3 0 1	7 0 0	- -	9	3	0	4	16	16	0	6
真岡工業	1 ● 3	0 ● 4	2 Δ 2	0 ● 2	1 Δ 1	3 0 1	-	1 ● 6	2 0 0	- -	8	2	2	4	10	19	-9	7
国学院栃木	0 ● 5	1 Δ 1	0 ● 2	1 Δ 1	- -	1 ● 3	6 0 1	-	- -	- -	5	1	2	3	9	13	-4	8
矢板東	0 ● 6	0 ● 7	1 Δ 1	1 ● 4	2 0 0	0 ● 7	0 ● 2	- -	- -	- -	4	1	1	5	4	27	-23	9
栃木SCユースB	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	-	0	0	0	0	0	0	0	-

2部B

	宇短大附B	真岡B	足利大附	さくら清修B	宇都宮	小山南	白鷗足利B	大田原	石橋	小山西	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点差	順位
宇短大附B	-	1 0 0	6 0 0	2 0 1	1 0 0	- -	2 0 0	1 0 0	2 0 1	6 0 1	24	8	0	0	21	3	18	1
真岡B	0 ● 1	-	3 0 0	3 0 1	7 0 0	1 0 0	5 0 0	0 Δ 0	5 0 1	3 0 0	22	7	1	1	27	3	24	2
足利大附	0 ● 6	0 ● 3	-	2 0 0	3 0 1	- -	3 0 1	3 0 0	5 0 2	3 0 0	18	6	0	2	19	13	6	3
さくら清修B	1 ● 2	1 ● 3	0 ● 2	-	3 0 0	2 ● 3	3 0 0	4 0 1	2 0 1	1 ● 3	12	4	0	5	17	15	2	4
宇都宮	0 ● 1	0 ● 7	1 ● 3	0 ● 3	-	3 0 1	3 0 1	1 Δ 1	0 ● 8	1 0 0	10	3	1	5	9	25	-16	5
小山南	- -	0 ● 1	- -	3 0 2	1 ● 3	-	4 0 0	1 ● 2	6 0 0	- -	9	3	0	3	15	8	7	6
白鷗足利B	0 ● 2	0 ● 5	1 ● 3	0 ● 3	1 ● 3	0 ● 4	-	5 0 2	1 0 0	1 0 0	9	3	0	6	9	22	-13	7
大田原	0 ● 1	0 Δ 0	0 ● 3	1 ● 4	1 Δ 1	2 0 1	2 ● 5	-	1 ● 2	3 0 1	8	2	2	5	10	18	-8	8
石橋	1 ● 2	1 ● 5	2 ● 5	1 ● 2	8 0 0	0 ● 6	0 ● 1	2 0 1	-	1 ● 2	6	2	0	7	16	24	-8	9
小山西	1 ● 6	0 ● 3	0 ● 3	3 0 1	0 ● 1	- -	0 ● 1	1 ● 3	2 0 1	-	6	2	0	6	7	19	-12	10

3部 a

	矢板中央D	矢板	那須清峰	黒磯	大田原B	烏山	高根沢	馬頭	黒磯南	黒磯	那須拓陽	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点差	順位
矢板中央D		4○1	4○2	4○0	5○1	4○0	4○0	8○1	10○0	19○0	5○1	27	9	0	0	67	6	61	1
矢板	1●4		1○0	1△1	4○0	2○1	3○0	3○1	4○1	7○1	3○0	25	8	1	1	29	9	20	2
那須清峰	2●4	0●1		2○0	0●2	3○1	3○0	4○0	5○0	5○0	3○0	21	7	0	3	27	8	19	3
黒磯	0●4	1△1	0●2		- -	1○0	3○2	1○0	7○2	4○0	4○0	19	6	1	2	21	11	10	4
大田原B	1●5	0●4	2○1	- -		3○1	3△3	5○1	3○1	1△1	2○0	17	5	2	2	20	16	4	5
烏山	0●4	1●2	1●3	0●1	1●3		3○0	- -	2○0	5○0	3○1	12	4	0	4	16	14	2	6
高根沢	0●4	0●3	0●3	2●3	3△3	0●3		4○2	1●5	- -	3○1○	7	2	1	6	13	27	-14	7
馬頭	1●8	1●3	0●4	0●1	1●5	- -	2●4		3○2	1●2	3○1	6	2	0	7	12	30	-18	8
黒磯南	0●10	1●4	0●5	2●7	1●3	0●2	5○1	2●3		- -	3○1	6	2	0	7	14	36	-22	9
黒羽	0●19	1●7	0●5	0●4	1△1	0●5	- -	2○1	- -		0●4	4	1	1	6	4	46	-42	10
那須拓陽	1●5	0●3	0●3	0●4	0●2	1●3	1●3	1●3	1●3	4○0		3	1	0	9	9	29	-20	11

3部 b

	宇都宮工業	さくら清修C	今市	宇都宮北B	真岡工業B	鹿沼	文星芸大付C	宇短大附C	烏山B	鹿沼東	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点差	順位
宇都宮工業		4○0	3○1	0●3	0●5	3○2	4○2	2○1	8○0	2○1	21	7	0	2	26	15	11	1
さくら清修C	0●4		2○1	3△3	2○1	0●1	4○0	9○0	3○1	2○1	19	6	1	2	25	12	13	2
今市	1●3	1●2		1△1	1○0	2○1	5○0	0△0	1○0	1○0	17	5	2	2	13	7	6	3
宇都宮北B	3○0	3△3	1△1		8○2	0●1	0●1	1△1	1○0	4○0	15	4	3	2	21	9	12	4
真岡工業B	5○0	1●2	0●1	2●8		2○0	1△1	2△2	0△0	1○0	12	3	3	3	14	14	0	5
鹿沼	2●3	1○0	1●2	1○0	0●2		- -	0△0	1●2	2○0	10	3	1	4	8	9	-1	6
文星芸大付C	2●4	0●4	0●5	1○0	1△1	- -		2○1	6○0	3●4	10	3	1	4	15	19	-4	7
宇短大附C	1●2	0●9	0△0	1△1	2△2	0△0	1●2		0●1	3○0	7	1	4	4	8	17	-9	8
烏山B	0●8	1●3	0●1	0●1	0△0	2○1	0●6	1○0		0●3	7	2	1	6	4	23	-19	9
鹿沼東	1●2	1●2	0●1	0●4	0●1	0●2	4○3	0●3	3○0		6	2	0	7	9	18	-9	10

3部 c

	益子芳星	宇短大附D	宇都宮北	今泉工業	宇都宮工業B	宇都宮白楊C	宇都宮商業B	真岡北陵	上三川	栃木工業B	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点差	順位
益子芳星		3○1	0●1	3●4	2○1	3●7	8○0	1○0	14○0	10○2	18	6	0	3	44	16	28	1
宇短大附D	1●3		1●2	2○1	2○1	2○0	8○0	4○2	5○0	- -	18	6	0	2	25	9	16	2
宇都宮北	1○0	2○1		2●3	0●3	2○0	0●2	6○1	8○1	2○1	18	6	0	3	23	12	11	3
今市工業	4○3	1●2	3○2		0●2	2○0	1●2	8○1	13○1	2△2	16	5	1	3	34	15	19	4
宇都宮工業B	1●2	1●2	3○0	2○0		0●1	7○0	0△0	7○2	2○1	16	5	1	3	23	8	15	5
宇都宮白楊C	7○3	0●2	0●2	0●2	1○0		3○2	8○0	2○1	1△1	16	5	1	3	22	13	9	6
宇都宮商業B	0●8	0●8	2○0	2○1	0●7	2●3		1●3	2△2	2○1	10	3	1	5	11	33	-22	7
真岡北陵	0●1	2●4	1●6	1●8	0△0	0●8	3○1		4○2	- -	7	2	1	5	11	30	-19	8
上三川	0●14	0●5	1●8	1●13	2●7	1●2	2△2	2●4		1○0	4	1	1	7	10	55	-45	9
栃木工業B	2●10	- -	1●2	2△2	1●2	1△1	1●2	- -	0●1		2	0	2	5	8	20	-12	10

3部d

	真岡C	宇都宮B	宇都宮清陵	文星芸大附B	宇都宮白楊D	宇都宮商業	茂木	宇都宮南B	宇都宮東	鹿沼南	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点差	順位
真岡C	-	3○1	3○0	0△0	1○0	3○0	2○1	2○1	2○0	5○0	25	8	1	0	21	3	18	1
宇都宮B	1●3	-	1○1	2△2	2○1	2○0	2○0	1●2	3○0	6○0	17	5	2	2	20	9	11	2
宇都宮清陵	0●3	1△1	-	3○0	3○2	2○0	0△0	0●1	4○2	6○1	17	5	2	2	19	10	9	3
文星芸大附B	0△0	2△2	0●3	-	2●4	2○0	1●3	4○0	4○0	17○0	14	4	2	3	32	12	20	4
宇都宮白楊D	0●1	1●2	2●3	4○2	-	0△0	6○0	3○2	1△1	11○0	14	4	2	3	28	11	17	5
宇都宮商業	0●3	0●2	0●2	0●2	0△0	-	3○1	4○0	7○0	2○0	13	4	1	4	16	10	6	6
茂木	1●2	0●2	0△0	3○1	0●6	1●3	-	4○0	6○0	2○1	13	4	1	4	17	15	2	7
宇都宮南B	1●2	2○1	1○0	0●4	2●3	0●4	0●4	-	0●2	9○0	9	3	0	6	15	20	-5	8
宇都宮東	0●2	0●3	2●4	0●4	1△1	0●7	0●6	2○0	-	6○1	7	2	1	6	11	28	-17	9
鹿沼南	0●5	0●6	1●6	0●17	0●11	0●2	1●2	0●9	1●6	-	0	0	0	9	64	-61	10	

3部e

	小山南C	足利	小山西B	足利清風	足利工業	國學院栃木B	小山城南	小山B	栃木B	壬生	佐野松桜	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点差	順位
小山南C	-	1○0	1△1	1○0	4○0	- -	1○0	6○0	3○0	2○1	3○2	25	8	1	0	22	4	18	1
足利	0●1	-	2○0	1△1	1●4	2○1	1○4	5○1	2○0	3○0	1△1	17	5	2	3	18	13	5	2
小山西B	1△1	0●2	-	1●3	3○1	1●3	1○0	1○0	2○1	4○0	2△2	17	5	2	3	16	13	3	3
足利清風	0●1	1△1	3○1	-	2△2	2●3	3○0	3○2	1△1	1△1	1●2	13	3	4	3	17	14	3	4
足利工業	0●4	4○1	1●3	2△2	-	- -	4○2	3○1	1●5	0●2	6○0	13	4	1	4	21	20	1	5
國學院栃木B	- -	1●2	3○1	3○2	- -	-	2△2	11○0	1△1	- -	- -	11	3	2	1	21	8	13	6
小山城南	0●1	4○1	0●1	0●3	2●4	2△2	-	4○3	0●3	1△1	4△4	9	2	3	5	17	23	-6	7
小山B	0●6	1●5	0●1	2●3	1●3	0●11	3●4	-	2○0	4○2	2○0	9	3	0	7	15	35	-20	8
栃木B	0●3	0●2	1●2	1△1	5○1	1△1	3○0	0●2	-	5○0	- -	8	2	2	4	16	12	4	9
壬生	1●2	0●3	0●4	1△1	2○0	- -	1△1	2●4	0●5	-	1○0	8	2	2	4	8	20	-12	10
佐野松桜	2●3	1△1	2△2	2○1	0●6	- -	4△4	0●2	- -	0●1	-	6	1	3	4	11	20	-9	11

3部f

	栃木シティ	小山南B	佐野日大C	足南・栃農合同	足利大附B	小山北桜	青藍泰斗	栃木工業	足利B	佐野	栃木翔南	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点差	順位
栃木シティ	-	1●3	2○0	5○1	1○0	4○0	3○0	1○0	5○2	2○1	- -	24	8	0	1	24	7	17	1
小山南B	3○1	-	1△1	7○2	- -	8○0	1△1	3○0	3○0	6○0	12○0	23	7	2	0	44	5	39	2
佐野日大C	0●2	1△1	-	9○0	1△1	3○1	6○1	5○0	4○1	3○0	13○0	23	7	2	1	45	7	38	3
足南・栃農合同	1●5	2●7	0●9	-	1○0	1●5	1△1	1○0	3○1	3○1	4○1	16	5	1	4	17	30	-13	4
足利大附B	0●1	- -	1△1	0●1	-	5○3	- -	0●2	7○2	2○1	5○0	13	4	1	3	20	11	9	5
小山北桜	0●4	0●8	1●3	5○1	3●5	-	2△2	3○2	1●3	3○1	9○0	13	4	1	5	27	29	-2	6
青藍泰斗	0●3	1△1	1●6	1△1	- -	2△2	-	2○0	3○1	- -	- -	9	2	3	2	10	14	-4	7
栃木工業	0●1	0●3	0●5	0●1	2○0	2●3	0●2	-	1●2	1○0	3○0	9	3	0	7	9	17	-8	8
足利B	2●5	0●3	1●4	1●3	2●7	3○1	1●3	2○1	-	2△2	- -	7	2	1	6	14	29	-15	9
佐野	1●2	0●6	0●3	1●3	1●2	1●3	- -	0●1	2△2	-	13○0	4	1	1	7	19	22	-3	10
栃木翔南	- -	0●12	0●13	1●4	0●5	0●9	- -	0●3	- -	0●13	-	0	0	0	7	1	59	-58	11

高円宮杯 JFA U-18サッカープリンスリーグ 2020 関東

順位	チーム名	勝点	得失	
1位	東京ヴェルディユース	23	+9	(東京都)
2位	前橋育英高校	19	+12	(群馬県)
3位	昌平高校	15	-4	(埼玉県)
4位	川崎フロンターレU-18	13	+4	(神奈川県)
5位	矢板中央高校	13	+2	(栃木県)
6位	桐生第一高校	13	-2	(群馬県)
7位	鹿島アントラーズユース	13	-3	(茨城県)
8位	山梨学院高校	9	-3	(山梨県)
9位	三菱養和サッカークラブユース	4	-6	(東京都)
10位	帝京高校	4	-9	(東京都)

詳しくは、日本サッカー協会および関東サッカー協会HPでご確認ください。

2020年度 栃木県高等学校定時制通信制サッカー競技について

栃木県立学悠館高等学校
サッカー部顧問 古澤 秀友

今年度においては、コロナウイルスにおける大会運営について大変な年になりました。本来ならば6月に行われる定時制通信制総合体育大会サッカー競技が中止となり、卒業学年である生徒達が大切な大会に出場できなくなるという状況に見舞われました。しかし関東地区では、ぜひ生徒達に今までの練習の成果を発揮できる場を設定したいと考え、令和2年度第35回関東地区高等学校定時制通信制

サッカー大会を開催することとなりました。

そのため、10月31日に令和2年度第8回栃木県高等学校定時制通信制秋季大会サッカー競技を行い、優勝した栃木県立学悠館高等学校が関東大会出場に決定しました。

関東大会では、接戦の末、惜しくも準優勝という結果になりましたが、選手達は関東大会に出場できない生徒達を踏まえ一生懸命取り組みました。

来年度以降、普段通りの大会が開催できるよう願っております。

2020年度 第8回栃木県高等学校定時制通信制秋季大会

期日：2020年10月31日 会場：栃木県総合運動公園サッカー場

学悠館	4	-	0	宇商
宇商	0	-	1	真岡
真岡	1	-	3	学悠館

1位	学悠館
2位	真岡
3位	宇商

2020年度 第35回関東地区高等学校定時制通信制サッカー大会

優勝	星槎国際	東京
準優勝	学悠館	栃木
第3位	横浜総合	神奈川
第3位	秀英	神奈川

保土ヶ谷S	保土ヶ谷公園サッカー場
	横浜市保土ヶ谷区花見台4-2

			11/28 (土)	11/29 (日)
1	星槎国際	東京		
2				S3 10:00
3			S1 12:30	3 0
4	横浜総合	神奈川		
5	松栄学園	埼玉		S5 15:00
6	松戸南	千葉	S2 14:00	1 2
7	秀英	神奈川		S4 11:30
8				0 3
	学悠館	栃木		

11/28 (土)	12:30	S1	横浜総合	3	1-0 2-0	0	松栄学園
	14:00	S2	松戸南	1	1-1 0-1	2	秀英
11/29 (日)	10:00	S3	星槎国際	2	1-0 1-1	1	横浜総合
	11:30	S4	秀英	0	0-0 0-3	3	学悠館
	15:00	S5	星槎国際	3	1-0 2-2	2	学悠館

高校女子サッカー-2020年度シーズンを終えて

栃高体連サッカー専門部
女子委員会総務 増田能人

初めに、この度、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）により、罹患された方々に心よりお見舞い申し上げますと共に、医療従事者の皆さまをはじめ、行政の皆さまや感染防止にご尽力されている皆さまに敬意を表し、深く感謝申し上げます。

高校女子サッカーでは、春の総体予選が中止となり、3年生の大会としては、9月に行われた選手権予選のみとなりました。各高校において、活動の制限や十分な準備を設けることが難しい部分もありましたが、最後まで諦めず戦う姿が見られた大会とな

りました。結果は、優勝した宇都宮文星女子高校と準優勝の宇都宮短期大学附属高校が関東選手権大会に、第3位の白鷗大学足利高校と第4位の宇都宮中央女子高校が関東秋季大会に出場しました。今年度は、栃木県の青木サッカー場を中心に関東選手権大会が行われ、1都7県から16チームが集まり、宇都宮文星女子高校は第7位となり、全国大会に出場しました。全国大会では、初戦で兵庫県代表の姫路女学院高校に3-0で勝利しましたが、2回戦では千葉県代表の暁星国際高校（関東第2代表）に惜しくも1-3で敗れ、ベスト16という結果になりました。宇都宮文星女子高校が全国大会ベスト16に入っ

たということは、他のチームへの刺激になり、今後も栃木県高校女子サッカーのより一層の進化を期待させてくれました。

2020年度シーズンでは、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）によって、様々な変化・対応を余儀なくされ、無観客試合の実施や1年生大会も

中止となりました。また、12月に行われた宇都宮フェスティバルでは、毎年県外からたくさんのチームに参加してもらいましたが、今年度は県内のチームのみで行いました。一日も早い新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の終息と、皆さまのご健康を心よりお祈り申し上げます。

第29回栃木県高等学校女子サッカー選手権大会 兼 第29回全日本高校女子サッカー選手権大会関東地区大会栃木県予選会 第16回関東高校女子サッカー大会栃木県予選会開催について

日	No	組合せ	時間	会場	競技時間
9/5 (土)	1	①	9:30	県総合運動公園 サッカー場	60分 (HT10分) 延長:なし PK:あり
	2	②	11:00		
	3	③	12:30		
	4	④	14:00		
9/6 (日)	5	⑤	9:30		
	6	⑥	11:00		
	7	⑦	12:30		
	8	⑧	14:00		
9/13 (日)	9	⑨	9:30		
	10	⑩	11:00		
	11	⑪	12:30		
	12	⑫	14:00		
9/19 (土)	13	⑬	9:30	※1	70分 (HT10分) 延長:20分 PK:あり
	14	⑭	11:00		
	15	⑮	12:30		
	16	⑯	14:00		
9/20 (日)	17	⑰	9:30	※1	
	18	⑱	11:30		
9/22 (日)	19	⑲	9:30	※1	
	20	⑳	11:30		
9/26 (土)	21			未定	予備日
	22				

・予選リーグ

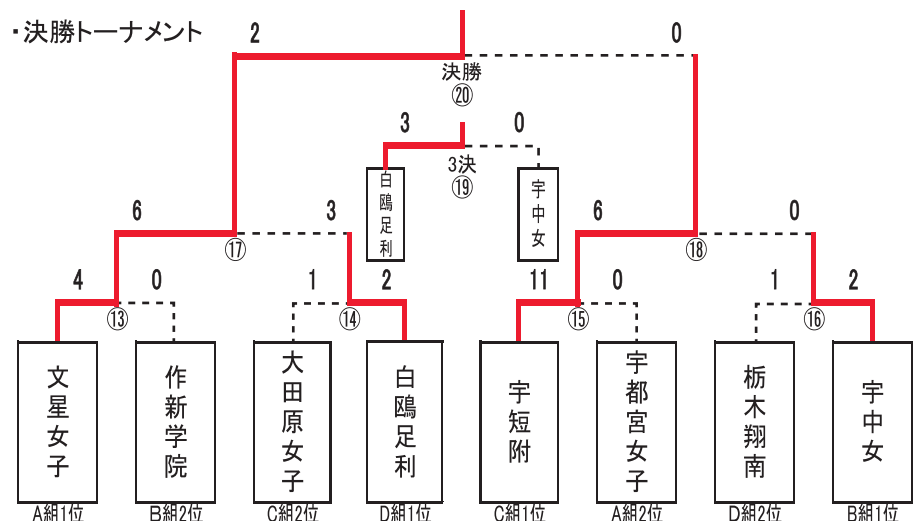
A組	○文星女子	益子芳星	宇都宮女子
○文星女子		① 12-0	⑨ 9-0
益子芳星	0-12		⑤ 0-2
宇都宮女子	0-9	2-0	

B組	○宇中女	栃木女子	作新学院
○宇中女		② 6-0	⑩ 2-2
栃木女子	0-6		⑥ 0-5
作新学院	2-2	5-0	

C組	○大田原女子	宇短附	小山城南
○大田原女子		③ 1-3	⑦ 5-0
宇短附	3-1		⑪ 7-0
小山城南	0-5	0-7	

D組	○白鷗足利	佐野東	栃木翔南
○白鷗足利		④ 12-0	⑫ 9-2
佐野東	0-12		⑧ 0-14
栃木翔南	2-9	14-0	

・決勝トーナメント



※1 グリーンスタジアム サブグラウンド

第3種委員会・中学連盟

2020年を振り返って

(公社) 栃木県サッカー協会中学連盟理事
菅谷 昌広

2020年は、新型コロナウイルス感染症に振り回された1年であった。春先の緊急事態宣言、その後の感染拡大を受けて、春季大会・総合体育大会・新人大大会と中体連のすべての大会が中止となった。目標がなくなってしまった各チームの選手や指導者のことを考えると、胸が痛む思いである。このような状況の中、8/1(土)・2(日)には総合体育大会の代替大会として、サッカー協会主催という形でU-15中学校サッカー地域交流戦を開催した。地区や学校の状況等もあり、すべてのチームの参加とはならなかったが、部活動を続けてきた3年生にとっての集大成となるステージを用意できたことは、大きな意義があったのではないだろうか。感染対策に配慮しながら試合の場を設定してくれた、中体連サッカー専門部の御子貝競技委員長をはじめとする関係者の方々には、感謝の意を表したい。

また、一昨年から開催に向けて準備を進めてきた関東中学校サッカー大会が中止となってしまった。実行委員会を組織し、開催自治体や関係機関と連携を図りながら大会の成功を目指してきただけに、非常に残念な思いである。次回の栃木県開催までにさらに7年間あり、前回大会から通算すると15年の間隔が空いてしまうことによる弊害も懸念される。

3種関係では、U-15リーグをスタートさせたばかりの時点で大会をストップさせ、そのまま中止とせざるを得なかった。ここでも、貴重な公式戦の機会が失われたことは選手の育成にとって大きな損失であると言える。感染がやや落ち着いた秋からは、ガイドラインを遵守しながら徐々に活動を再開させ、高円宮杯・下野杯・協会長杯(チャンピオンシップ)・U-13リーグを実施することができた。大会開催の可否については、警戒レベルをみながら他の関東都県の様子も参考に判断してきた。このような事態は我々にとっても初めての経験であり戸惑いながらの決定であったが、各大会の成果と課題をしっかりと検証し、今後の活動につなげていきたい。

1月に入り、栃木県にも再度の緊急事態宣言が発令されるなど、感染症との闘いは終わりが見え

ない状況が続く。引き続き、選手に対する活動機会の提供と健康・安全の確保とのバランスを考えたい。本県で2022年に実施される「いちご一会とちぎ国体」少年の部には、現在の中学2年生が主力として参加する。今年はより一層の緊張感をもって、選手強化に取り組んでいかなければならない。そのためのバックアップ体制も整えていく必要がある。1日も早く、選手たちが思い切ってサッカーを楽しめる日常を取り戻せることを願わずにはいられない。

令和2年度の3種・中体連活動報告

栃木県サッカー協会3種委員長
栃木県中体連サッカー専門部委員長 御子貝 和亮

3種・中体連活動報告

今年度、予定されていた県中体連主催大会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により春季県大会・地区大会中止。関東中学校サッカー大会・全国中学校サッカー大会の中止により県総体サッカー大会が中止となり、県新人サッカー大会も中止となりました。

特に、関東中学校サッカー大会は栃木県開催の予定であり、前年度から準備を進めていただけに、中体連サッカー関係者として大変残念な結果となりました。

大会が全て中止となったことで、専門部内で、ワーキンググループを立ち上げ3年生の最後を締めくくる大会の検討を行いました。学校が6月頃再開し、部活動も再開したものの、選手のコンディションが整い試合ができるようになるのは1ヶ月半は最低かかります。よって、8月初旬の例年関東大会の開催日前後に開催することになりました。県専門部で大会運営することになり、様々な課題に取り組みました。①各自治体や学校での感染症拡大防止による部活動制限が様々であったことで、出場を見合わせるというチームが多くありました。よってオープン参加とし、県内を4つのステージに分け2日間で行うことになりました。②コロナ禍の中、大会開催ということで、感染症拡大防止対策は、十分に行わなければなりません。



◎公益財団法人日本サッカー協会

JFAサッカー活動の再開に向けたガイドライン
第2版(6/12)

○スポーツ庁

社会体育施設の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン

○公益財団法人日本スポーツ協会

スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン
スポーツイベント開催・実施時の感染防止策
チェックリスト

上記のガイドラインを参照し、大会独自のガイドラインを作成し、大会参加選手、チームスタッフ、運営スタッフ、保護者等に徹底させました。また、感染症拡大防止対策と併せて、熱中症予防対策も徹底した開催となりました。成果としては、3年生最後の大会ということで、3年生は全力を出し切ろうというモチベーションで戦い、どのステージも白熱した試合となり、関係者はもとより、保護者からも大会開催への感謝の言葉をいただきました。しかし、出場しなかったのに、出場ができなかったチーム選手もいたことで、複雑な気持ちであります。今後、コロナ禍においての大会参加可否については各自治体、学校などの部活動制限もありますが、選手の安全安心を担保しつつ、プレイヤーズファーストの考え方で、取り組んでいきたいと思っております。

(2) 3種【下野杯】

2020年3種の大きな事業である栃木県ユースU-15サッカーリーグを新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止としました。クラブユース連盟のクラブユース選手権や、中体連の総合体育大会も中止となり3種では、第51回下野杯争奪中学生サッカー大会の開催に向け、最善の安全対策を練り準備にあたりました。下野杯は、県内ジュニアユースクラブと中学校チームが同じトーナメントで争う大会で、約1ヶ月の長期トーナメントとなります。今大会は、127チームの参加希望があり、日程・会場・組合せ・レギュレーションなど新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を踏まえ万全の対応で、準備を進めました。JFAや関係スポーツ団体の感染拡大防止ガイドラインを参考に下野杯独自のガイドラインを作成しました。①チェックリスト(参加チーム用・会場責任者用)②健康チェックシート(大会参加選手・スタッフ・審判)③大会参加者名簿(保護者を含む)の提出と確認、各

会場の必要物品の準備(消毒液、マスク・液体石鹸・表示等)、特に選手、スタッフの健康チェックシートは保護者承諾署名と印鑑をマストとしました。

(2020/11/3 版)

**栃木県サッカー協会3種委員会
新型コロナウイルス対応版
2020 下野杯サッカー大会実施に関するガイドライン**

■参照文書

- ◎公益財団法人日本サッカー協会
JFA サッカー活動の再開に向けたガイドライン 第2版
- スポーツ庁
社会体育施設の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン
- 公益財団法人日本スポーツ協会
スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン
スポーツイベント開催・実施時の感染防止策チェックリスト

1.ガイドライン策定の目的

日本サッカー界の将来を担うユースの少年達のサッカー技術の成果を発揮する機会を設けるとともに、安心して安全にサッカー活動ができるために策定する。

- (1)「感染拡大防止」という目的で対応を定める。→ 自身が感染すること以上に他者への感染拡大を抑制する。
- (2)サッカーで「集団感染(クラスター)」をつつらない。→ 人が集まる、人を集める作用を制限する。
- (3)「自覚症状がない感染者が感染を拡大させる危険性」を軽減する。→ 自覚のない感染に配慮し、衛生管理や健康管理への留意を啓発する。

2.事業実施のポイント

- (1) サッカーに関わるすべての人に感染拡大が及ばない対策をみんなで徹底する。
- (2) 集団感染(クラスター)の発生原因となりやすいといわれる「三つの密」の設定をしない。
 - 1 密閉空間で換気が悪い 2 近距離での会話や発生がある 3 手の届く距離に多くの人がいる。
- (3) 相手からできるだけ2mを離れることを意識し行動する。
- (4) 参加者同士の接触機会を最小限に抑えるように努力する。
- (5) 参加については、個人やチームの参加意思のもと参加者の責任において参加する。
- (6) 参加者の体調や参加者自身の意思に応じて参加できないことを認める。
- (7) 感染が疑われたり発生したりした場合は速やかに対応する。
- (8) 開催する市町村、施設の対策に従う。
- (9) 開催日までに、政府または行政機関等から諸活動に対する自粛要請等が発せられた場合は中止または延期の対応をとること。

4. 感染が疑われたり発生したりした場合の対応

(1)近隣の接触者センターや所管の保健所に問い合わせる。

(2)サッカー協会への連絡

当事者/チーム代表者
↓
会議/大会の感染対策責任者→種別委員長→協会事務局(専務理事/会長)→JFA
↓
他の参加者や借用施設等

(3) 感染した経路に特定された場合は、保健所の対応に協力する。

(4) **重要**な参加の有無の具体的なケース

	大会	当該チーム	当該チームスタッフ
政府・県知事や県全体の教育委員会から中止命令が出た場合	×大会中止	×出場中止	×出場中止
大会関係者(選手・スタッフ)が感染した場合	△ 保健所の指示に従う	×出場中止 (※チーム内50%未満)	×出場中止 (※チーム内50%未満)
大会関係者(選手・スタッフ)が濃厚接触もしくは疑いがある ※大会関係者の家族や学校、職場などで感染者が出た場合	○大会続行	×出場中止 (※チーム内50%未満)	×出場中止 (※チーム内50%未満)
大会関係者(選手・スタッフ)の家族がPCR検査を受けていて結果が出ていない場合	○大会続行	×出場中止 (※チーム内50%未満)	×出場中止 (※チーム内50%未満)
選手の所属している学校で、感染症による学校休業になっている場合 ※スタッフも同様の対応をする。	○大会続行	×出場中止 (※チーム内50%未満)	×出場中止 当該チームスタッフ

3.事業開催の流れ	
事前	1.JFA サッカー活動の再開にむけたガイドラインを確認する。
	2.チェックリストを確認する(excel ファイル)。 ①大会参加チーム用 ②健康チェックシート(大会参加選手、スタッフ、審判) ③会場責任者用 ④大会参加者名簿
	3.感染拡大の状況や他のガイドラインや注意事項を事前に確認する。 開催する市町村や施設管理者が示すガイドラインや注意事項等
	4.「感染対策責任者」を決める。 ※大会全体の責任者や、会場責任者を開催日ごとに明確にする
	5.参加チームに「大会注意事項」を配布し、チーム、選手、保護者に内容を確認してもらう。
	6.必要物品の準備を準備する。 チーム責任者:消毒液、マスク、ポンプ式の液体石けん等 会場責任者:消毒液、マスク、「手洗い」表示等
当日	7.関係者全員が感染症対策ガイドラインに基づき安全な事業を運営する。
	8.チーム責任者は会場責任者に各種書類を提出する。 ①健康チェックシート(選手、スタッフ、審判) → 会場責任者は2週間保管。 特に未成年者の場合は、必ず保護者承諾署名と印を押したものでないこと不可 ②参加チーム用チェックリスト ③大会参加者名簿(選手、スタッフ、審判、保護者)
	9.勝ち進んだチームへの健康チェックシートの記入確認を行う。 ・次の日も試合の場合 … 検温チェック欄があれば、その健康チェックシートを次の試合も使用する。 ・次週の場合 … 新しい健康チェックシートを使用し、その日から1週間の健康チェックを行い、次の試合に必ず持参する。
	10.会場責任者は事務局(とまどうFC 福田)へ各種報告書類を提出する。 ・試合結果 ・※健康チェックシート、参加チーム用チェックリスト、大会参加者名簿は会場責任者が保管し、何かあった場合は、速やかに事務局まで提出。
事後	11.チーム責任者は事後の健康観察または報告を行う。 ・試合終了3日後までに選手・保護者等で体調不良者が出た場合には大会責任者(宮の原中 御子貝)に報告する。 ・試合終了後14日以内に新型コロナウイルス感染症の感染が判明した場合は速やかに大会責任者(宮の原中 御子貝)に報告する。
	12.会場責任者はチェックシートとチェックリストを2週間保管する。

また、大会参加チームに「大会注意事項」の内容を徹底し、厳守してもらい、感染が疑われたり発生した場合の対応も徹底し、大会や参加の有無の具体的なケースを各チームの責任において周知徹底をはかりました。決勝はグリーンスタジアムで行われ、選手人数の制限や応援保護者の人数制限など十分な対応を図りました。

大会を通じて、栃木県サッカー協会、下野新聞社、各チーム関係者、運営担当者、保護者の方々の感染症拡大防止対策の徹底が図られ、安全に大会が終了できたことに、感謝申し上げます。

—— 第4種委員会・少年連盟 ——

会長挨拶

栃木県少年サッカー連盟
会長 吉澤 卓

今年度は安心・安全を最優先としたコロナ対策を取りながら活動する1年となった。日々の練習や対外試合の自粛を各チームに要請し理解・協力を得ながら感染拡大の危機はこれまで回避することができてきた。「活動完全休止」の時期を設けるなど、選手をはじめ少年サッカー関係者には大変厳しい状況もあった。中学年代までの継続を目

的(選手育成の空白期間の解消)に、昨年度までは秋季に実施していたU12選手権大会を今年度から新たに2月開催に大きく改善した矢先のコロナ対応のため、大会中止になったことは特に残念であった。初めてのカンセキスタジアムを使っての開会式も予定していたため、真新しいスタジアムの芝生に触れる経験もかなわないこととなった。残念な結果ではあったが、選手たちには是非、この素晴らしいスタジアムの芝の上でプレイすることを今後の目標として励んでもらいたい。



連盟としては、各年代やカテゴリーにつながる選手の育成を目指してU10選手権大会の新設、U11選手権大会の2区分でのエントリー、U12選手権大会の開催時期変更など改善策を今年度から計画した。コロナ対策により中止・延期等の厳しい実施状況ではあったが、目前の成果の追求に振り回されずに基礎・基本を身につける大切な年代の育成を最も大切な目標として今後も工夫改善をしながら活動の展開をしていきたい。

またコロナ対策の大変な1年ではあったが、「新しい生活様式」に合わせる変更・改善もあった。密や接触を避ける試合・会場運営、応援サポーターへの対応、Web動画配信による監督会議、online抽選会実施等の改善は効率的でスムーズな活動運営を進めることとなった。

21年度もコロナ感染の収束がすぐに実現することではなく安心・安全な対応策を取らなければならない。グラウンドから子どもたちの歓声がいつでも響きわたる日常が早く戻ってくることを願って関係者の理解・協力のもと連盟活動を展開していきたい。



写真〈蜜を避けての理事会実施〉

第49回 U-10 栃木県少年サッカー選手権大会



10月18日・24日・31日の3日間、さくら市のSAKURAグリーンフィールド、那須塩原市の青木サッカー場、宇都宮市の平出サッカー場など県内14会場において、117チームが激戦を繰り広げました。

本大会は、昨年度までの選手権ジュニアの部です。今年度は初日のリーグ戦を勝ち抜いた38チームが2日目以降の決勝トーナメントに進出し、U-10の頂点を決定する形式で実施されました。激戦を勝ち抜き決勝に駒を進めたのは塩谷南那須地区のヴェルフェ矢板U-10vertと宇河地区のともぞうサッカークラブU10でした。

決勝は、互いに得点チャンスを作るものの得点

することができずに前後半を終え、延長戦へ突入しました。そして延長戦前後半を終えても、勝敗が決せずPK戦へと突入します。U-12大会に勝るとも劣らない白熱した戦いとなりました。PK戦を制してU-10の頂点を極めたのは、ともぞうサッカークラブU10でした。



＜第3位 ポンジボーラ栃木＞



＜第3位 栃木サッカークラブU-12＞

JFA第44回全日本U-12 サッカー選手権大会栃木県大会



＜優勝 ともぞうサッカークラブU10＞



＜準優勝 ヴェルフェ矢板U-10vert＞



11月1日・3日・8日、市貝町の城見ヶ丘運動公園、足利市の足利スタジアム、宇都宮市の県グリーンスタジアムサブグラウンドなど県内6会場において、64チームが全国大会の出場権をかけて戦いました。

準決勝に勝ち上がったのは、宇河地区のFCみらい・TEAMリフレSC・栃木サッカークラブU-12、芳賀地区のJFCアミスタ市貝でした。

決勝は、準決勝までの全試合において3得点以上をあげ高い得点力で勝ち進んできたJFCアミスタ市貝と、攻守ともにバランスのとれた昨年度の覇者である栃木サッカークラブU-12の組合せとなりました。

決勝は、開始直後から栃木サッカークラブU-12が流れを掴み、前半2得点をあげ折り返します。後半は、アミスタ市貝が立て続けにシュートを放ちますが得点に結びつきませんでした。アミスタ市貝は激しくボールを奪いにいきますが、ゲーム終盤は栃木サッカークラブU-12が堅い守りからボールを支配し、アミスタ市貝に流れを渡しませんでした。激しい攻防の末、3-0で栃木サッカークラブU-12が2年連続7回目の全国大会出場を決めました。



<3位 FCみらい>



<優勝 栃木サッカークラブU-12>



<準優勝 JFCアミスタ市貝>



<3位 TEAMリフレSC>

クラブユース

2020年度 第14回関東ユースU-15
サッカーリーグ2部A 優勝 ウイングスSC

近藤 健

3年目のシーズンを迎えた今シーズンは新型コロナウイルスの影響で後期のみの開催となった。

徹底した感染対策に無観客試合。声援もない中の寂しいリーグ戦でしたが、公式戦が戦えるだけでもこの状況下では試合ができるだけで幸せだとポジティブにとらえなければならぬのだろう。チームとしては3年目だが選手は毎年入れ替わる。毎年、関東リーグを戦い抜く戦力を揃えなければならない。

Jリーグの下部組織など強豪チームと対等に戦うには技術、戦術、メンタルなどの要素を高い質のレベルで要求される。またサブメンバーの充実も必須である。毎試合ケガ人が出る激しいリーグ戦を戦い抜くためにはチーム全体の底上げを強化しなければならない。『交代で戦力の落ちない選手の育成+交代でリズムが変えられる選手の育成』が来シーズンに向けての課題となった。

イレギュラーのレギュレーションで行われたシーズンだったが、関東リーグ2部Aブロックは優勝しそして栃木SCが2位と栃木勢が上位を独占しMade in



栃木の選手だけでも十分に戦えるということを証明することが出来たシーズンだった。



2020年高円宮杯 第32回 全日本ユース(U-15)サッカー選手権 栃木県予選優勝 矢板SC

「大会内容」

大会のレギュレーションはノックアウト方式のトーナメント。

大会規定により関東大会の枠は上位5チーム。

試合では自分たちの良さである攻撃的なサッカーを1回戦から展開しながら駒を進むことができました。準決勝では先制点を奪われたり決勝ではPK戦と苦しいゲーム展開があったなかサブの選手も含め全員がしっかりと準備をしてくれていたの思い切って送り出すことができました。

大会期間全体を通してチーム全員で勝ち取った結果となりました。

自分たちの良さを試合で出して、チームが一つの目標に向かい一致団結できたことが今大会の結果に繋がったのではないかと思います。

「大会を通してのコメント」

監督 高橋 祐樹

矢板SCとしましては初優勝ということで大変、嬉しく思います。

1年間、大会が開催されるかわからないなか、もっと大きくいえばサッカーがいつできなくなるかわからない不安のなか大会を通して改めてサッカーができる環境に感謝の1年となりました。

大会を通して選手たちが安全に、かつサッカーができる環境を提供していただきご尽力いただきましたことに感謝致します。

ありがとうございました。



第17回栃木県クラブユース連盟 ラストゴール杯 優勝 FC朱雀

武馬 研二

今年は新型コロナウイルス感染拡大防止における公式戦の中止が相次ぎ、トレーニングも満足に出来ないシーズンでした。

シーズン最後の公式戦であるラストゴール杯に挑むにあたり、選手たちは高いモチベーションをもって参加出来た事は、我々指導者にとっても非常に良い大会であったと思います。

大会2日間4試合中3試合がPK戦とタフなゲームを経験する事も選手達の次のステージに向け価値ある経験をさせて頂いたと思います。



最後になりますが、今大会を無事に終えることができましたのも、クラブユース連盟をはじめとする大会関係者の方々に感謝致したいと思います。本当にありがとうございました。



審判委員長退任のご報告

私は、クラブユース連盟の審判委員長の添田と申します。

平素は、栃木県サッカー協会審判員会並びに関係各位には、格別のご指導を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、私儀 この度2010年から11年間務めさせて頂いていたクラブユース連盟の審判委員長を、2021年3月末日をもちまして退任させて頂くことになりました。

今日まで、私が審判委員長という大役を何とか務めることが出来たのも、偏に栃木県サッカー協会審判員会並びにクラブユース連盟の執行部の方々やチーム代表者の皆様、そして多くの審判員仲間からの多大なるご指導とご支援によるものであり、心から感謝を申し上げさせていただきます。

今 振り返りますと、私自身は本格的なサッカー経験者ではなく、子供が小学生でサッカーを始めたことをきっかけに審判員に携わり、その後子供がジュニアユースのチームでサッカーを続けたことにより3級審判員を取得し、当時はチーム帯同審判員として活動しておりました。その後、子供がジュニアユースを卒業した後も、チーム帯同審判員としてチームに残っていたため、クラブユース連盟から審判委員長のお話を頂きましたが、審判経験も少ないし、もとよりそのような器ではないので、一度目は辞退させていただきました。

しかし、その後 再度強い要請をいただいたため、「子供がお世話になった恩返し」との思いからお引き受けすることといたしました。

しかし、就任当初は何をすればいいのかわからず、不安ばかりが募る日々が続きましたが、クラブユース連盟の審判委員長として栃木県サッカー協会審判員会に参加させていただき、定例会議や研修会等の受講を経て、社会人をはじめとする県の派遣審判員にも従事させていただき、多くの経験を積ませていただくことにより当初の思いは徐々に解消され、審判員としても2012年に栃木県サッカー協会審判員会の推薦を頂きサッカー2級審判員を受験し合格することができ、その後サッカー3級インストラクターの資格も取得させていただき、今日を迎えることができた次第でございます。この度、私は審判委員長を退任致しますが、これからも一人の審判員として、またインストラクターとして微力ながら活動して参りたいと

思っております。

そして、今後のクラブユース連盟の審判委員会は、委員長に小島伸一氏、副委員長に西海石誠氏と手塚啓次氏のお三方に携わっていただきますので、皆様方には倍旧のご指導とご支援を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

最後に、栃木県サッカー協会並びにクラブユース連盟、そして同審判委員会のより一層の発展をご祈念申し上げ、クラブユース連盟審判委員長退任のご報告と御礼にかえさせていただきます。誠にありがとうございました。



シニア委員会・連盟

**JFA第9回全日本O-40
サッカー大会に出場して**

BOLAMISC宇都宮
代表 宇内俊文

「やっぱりサッカーするのは楽しい。」
今回の全国大会を経験し、全てはこの一言に凝縮されています。

O-40カテゴリーに参戦してから関東大会出場の実験はありましたが、関東の壁を痛感した印象でした。全国大会出場には程遠いとさえ感じたほどです。それが今回、栃木県代表にはチームの実力で勝ち取れたとはいえ、あらゆる偶然が重なり、全国大会出場という栄誉を掴めたのです。

過去に出場した関東大会を経験している選手が多数在籍しているので、自分達で出来る準備と調整は全てやり、あとは思い切って挑戦しようとなりました。もちろん、出場するからには勝利を目

指すのは大前提です。

前回大会優勝の兵庫サッカークラブ（関西代表／兵庫県）と同じ予選グループAに入ったことは嬉しい知らせでもありました。連戦が続く大会の初戦で対戦できることは自分達の実力を試せる絶好の機会だからです。

結果的には惨敗でした。あらゆる局面で相手が一枚上手でした。しかし、全てが通用しなかったわけではなく、次に繋げる良いキッカケでもありました。予選2戦目以降が大会2日目となっていたのも良い方向へ転びました。試合後のミーティングで気持ちの切り替えが上手くでき、新たに前に進む選択をチームで共有できたのが最高の結果へと繋がりました。

予選2戦目は、あずまフットボールクラブ（開催地代表／福島県）と対戦し、チーム初得点と全国大会初勝利を同時に達成できました。続く予選3戦目、ベクトル（中国代表／岡山県）と対戦して2戦目に続き勝利し、予選グループ2勝1敗（グループA 2位）で大会を終えることとなりました。全国大会ベスト4には残りませんでした。いつまでも楽しくサッカーができる仲間と共に上を目指せる経験は、これからの目標であり励みにもなります。

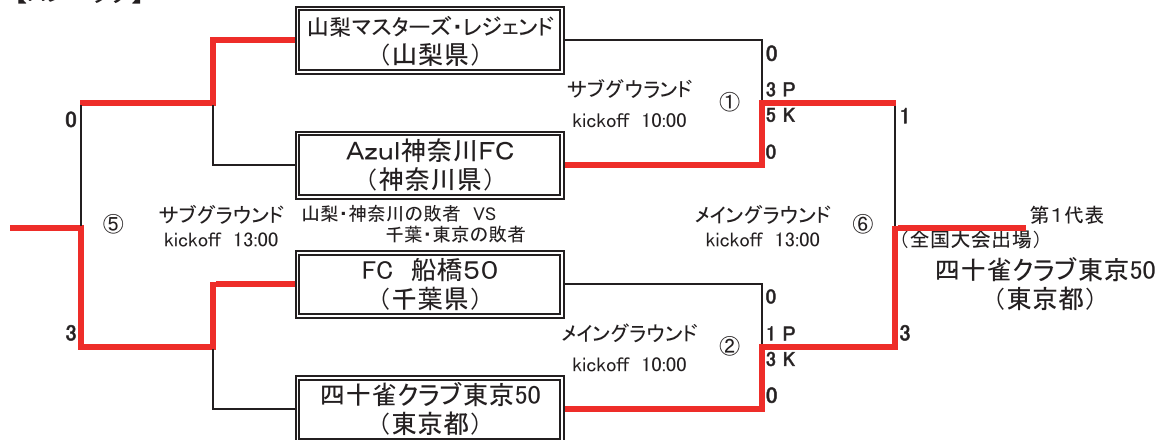
Jヴィレッジという最高の環境と全国大会という最高の舞台でサッカーをした喜びはなかなか味わえない経験です。全国大会出場に関わった全ての方々に感謝しつつ、これからもサッカーをとことん楽しんでいきたいと思えます。



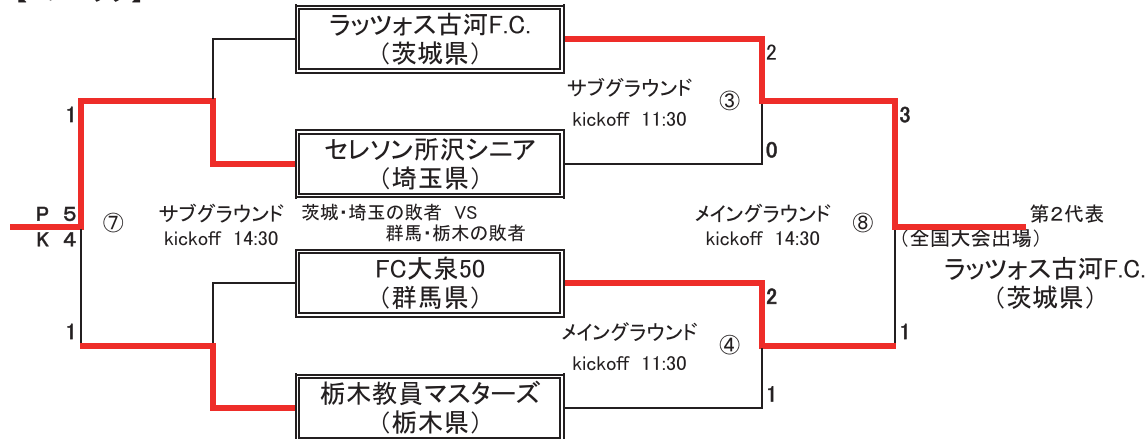
2020年度 JFA 第19回 全日本O-50サッカー大会関東予選会 結果表

【開催日】 2020年 10月11日(日)
 【試合会場】 栃木県グリーンスタジアム メイングラウンド・サブグラウンド

【Aブロック】



【Bブロック】



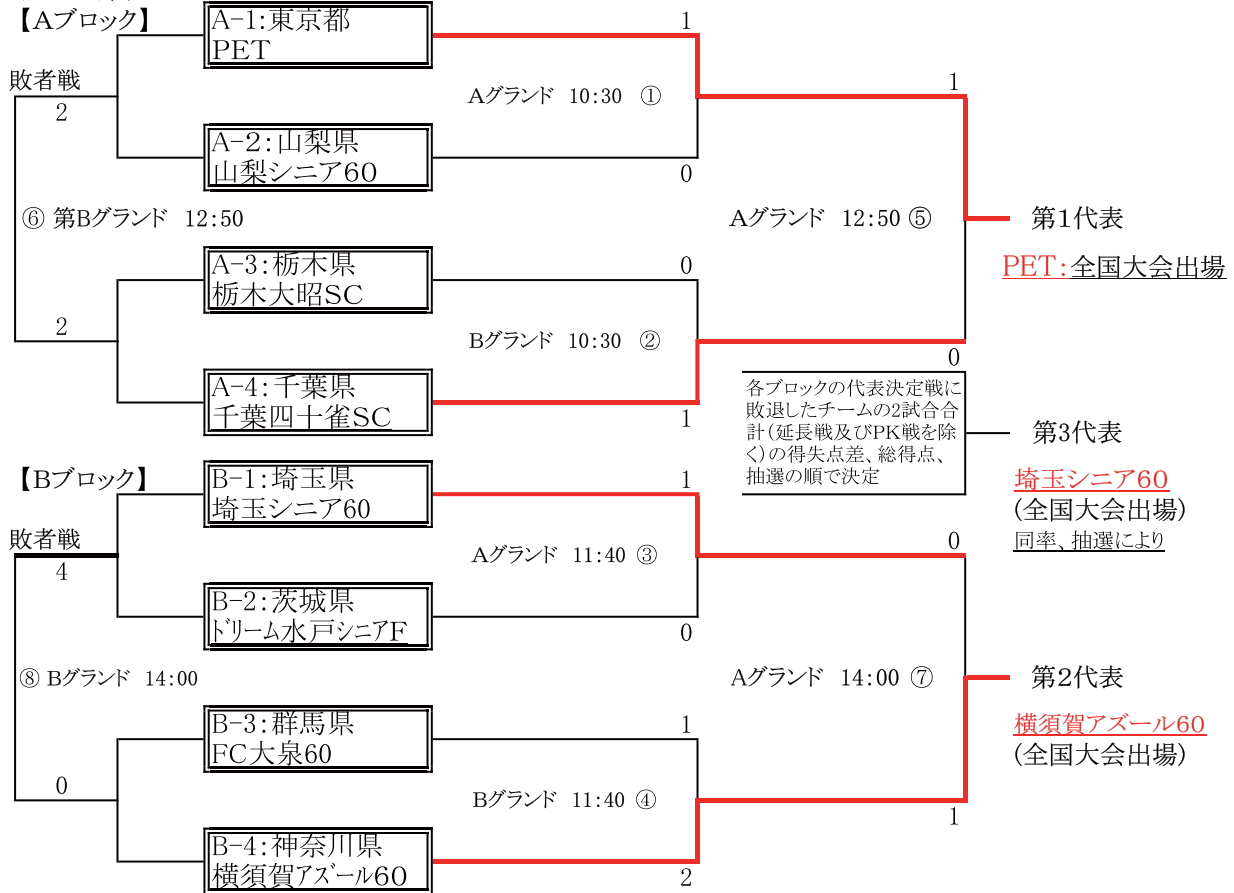
【試合時間】 1回戦、敗者戦(①~④⑤⑦): 50分(25分-10分-25分)+PK戦
 代表決定戦(⑥⑧): 50分(25分-10分-25分)延長戦 10分 + PK戦

マッチ No.	試合会場	キックオフ 時間	対 戦 カ ー ド						備考欄	
			0	0	VS	0	0			
①	サブグラウンド	10:00	山梨マスターズ・レジェンド(山梨県)	0	0	VS	0	0	Azul神奈川FC(神奈川県)	A組 1回戦
				3	PK		5			
②	メイングラウンド	10:00	FC 船橋50(千葉県)	0	0	VS	0	0	四十雀クラブ東京50(東京都)	A組 1回戦
				1	PK		3			
③	サブグラウンド	11:30	ラッツオス古河F.C.(茨城県)	2	1	VS	0	0	セレソン所沢シニア(埼玉県)	B組 1回戦
				1			0			
④	メイングラウンド	11:30	FC大泉50(群馬県)	2	0	VS	0	1	栃木教員マスターズ(栃木県)	B組 1回戦
				2			1			
⑤	サブグラウンド	13:00	山梨マスターズ・レジェンド(山梨県)	0	0	VS	3	3	FC 船橋50(千葉県)	A組 敗者戦
				0			0			
⑥	メイングラウンド	13:00	Azul神奈川FC(神奈川県)	1	1	VS	1	3	四十雀クラブ東京50(東京都)	A組 代表決定戦
				0		延長	0	1		
				0			1			
⑦	サブグラウンド	14:30	セレソン所沢シニア(埼玉県)	1	1	VS	0	1	栃木教員マスターズ(栃木県)	B組 敗者戦
				0			1			
⑧	メイングラウンド	14:30	ラッツオス古河F.C.(茨城県)	3	1	VS	0	1	FC大泉50(群馬県)	B組 代表決定戦
				2			1			

2020年度 JFA第21回U-60サッカー大会関東予選会 (11/29)

試合結果：千葉県総合スポーツセンターサッカー場 (天然芝)

21 トーナメント表



【試合時間】 1回戦(①-④):40分(20-10-20分)+PK戦、敗者戦⑥⑧同点時はそのまま終了!
代表決定戦⑤⑦:40分(20-10-20分)・延長10分+・PK戦

マッチNO	試合会場	キックオフ時間	対戦カード						備考欄	
①	Aグラウンド	10:30	PET	1	0	VS	0	0	山梨シニア60	A組1回戦
			A-1:東京都	1	1	VS	0	0	A-2:山梨県	
②	Bグラウンド	10:30	栃木大昭サッカークラブ	0	0	VS	1	1	千葉四十雀SC	A組1回戦
			A-3:栃木県	0	0	VS	0	0	A-4:千葉県	
③	Aグラウンド	11:40	埼玉シニア60	1	1	VS	0	0	ドリーム水戸シニア60	B組1回戦
			B-1:埼玉県	1	0	VS	0	0	B-2:茨城県	
④	Bグラウンド	11:40	FC大泉60	1	0	VS	0	2	横須賀アズール60	B組1回戦
			B-3:群馬県	1	1	VS	2	2	B-4:神奈川県	
⑤	Aグラウンド	12:50	PET	1	1	VS	0	0	千葉四十雀SC	A組決定戦
			A-1・2勝者	1	0	VS	0	0	A-3・4勝者	
⑥	Bグラウンド	12:50	山梨シニア60	2	0	VS	2	2	栃木大昭クラブ	A組敗者戦
			A-1・2敗者	2	2	VS	0	0	A-3・4敗者	
⑦	Aグラウンド	14:00	埼玉シニア60	0		VS		1	横須賀アズール60	B組決定戦
			B-1・2勝者	0		VS		1	B-3・4勝者	
⑧	Bグラウンド	14:00	ドリーム水戸シニア60	4	2	VS	0	0	FC大泉60	B組敗者戦
			B-1・2敗者	4	2	VS	0	0	B-3・4敗者	

第1代表:PET(東京都)

第2代表:横須賀アズール(神奈川県)

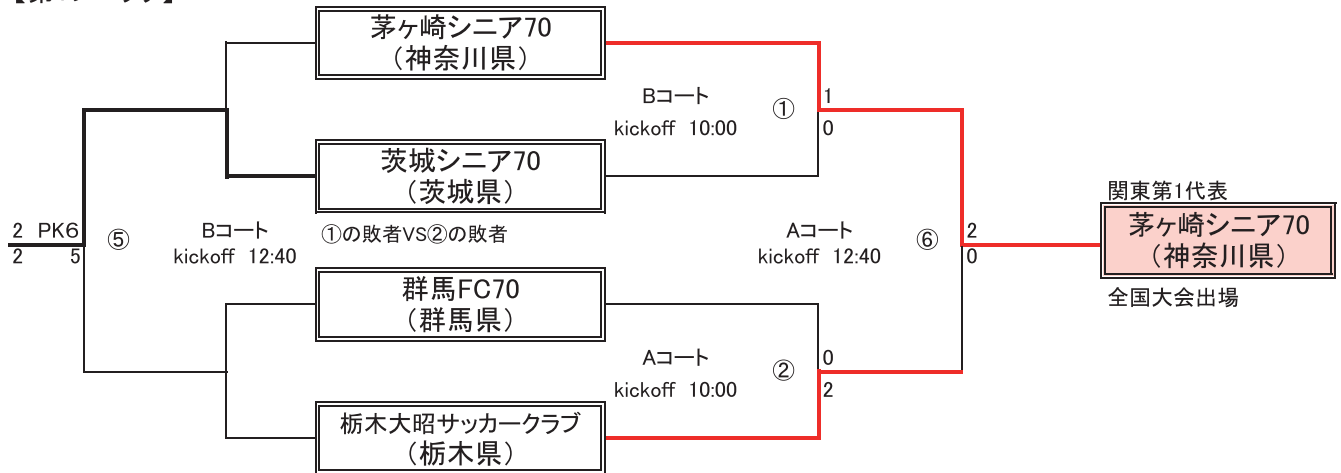
第3代表:埼玉シニア60(埼玉県)

*(第3代表決定方法:埼玉シニア60 千葉四十雀SC両チーム:得失・総得点同率の為、抽選にて決定)

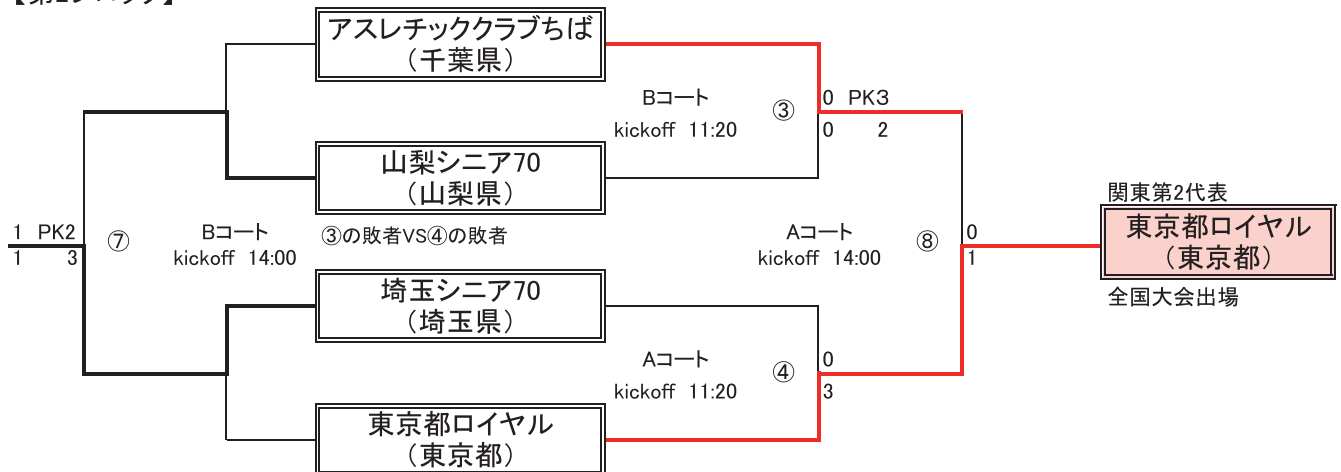
2020年度 JFA 第15回 全日本O-70サッカー大会関東予選会 組合せ表

【開催日】 2020年 11月1日(日)
 【試合会場】 コーエイ前橋フットボールセンター
 Aコート Bコート

【第1ブロック】



【第2ブロック】



【試合時間】 40分(20分-10分-20分)+PK戦

マッチ No.	試合会場	キックオフ 時間	対 戦 カ ー ド						備考欄	
			対戦チーム	PK	スコア	VS	スコア	PK		
①	B	10:00	茅ヶ崎シニア70(神奈川県)	1	1-0	VS	0-0	0	茨城シニア70(茨城県)	1組 1回戦
②	A	10:00	群馬FC70(群馬県)	0	0-0	VS	1-1	2	栃木大昭サッカークラブ(栃木県)	1組 1回戦
③	B	11:20	アスレチッククラブちば(千葉県)	PK 3	0-0	VS	0-0	PK 2	山梨シニア70(山梨県)	2組 1回戦
④	A	11:20	埼玉シニア70(埼玉県)	0	0-0	VS	2-1	3	東京都ロイヤル(東京都)	2組 1回戦
⑤	B	12:40	茨城シニア70	PK 6	0-1	VS	1-0	PK 5	群馬FC70	1組 敗者戦
⑥	A	12:40	茅ヶ崎シニア70	2	1-1	VS	0-0	0	栃木大昭サッカークラブ	1組 代表決定戦
⑦	B	14:00	山梨シニア70	PK 2	0-1	VS	0-1	PK 3	埼玉シニア70	2組 敗者戦
⑧	A	14:00	アスレチッククラブちば	0	0-0	VS	0-1	1	東京都ロイヤル	2組 代表決定戦

キッズ委員会

2020年度活動報告

県キッズ委員 大澤 寛之

◇グラスルーツ委員会

今年度はコロナによる影響で活動の制約がある中、県のキッズのフェスティバルの活動は、実施が出来ないことになりそうです。不特定多数の親子を参加対象とするフェスティバルはコロナ感染対策をするのが難しく、募集もままならない状況になっています。それでも、フェスティバルは大切な種をうえる活動でもあるので、今後は形にこだわらずに、何とか地区ごとに少人数でも工夫をして実施できるように計画しています。

そして今年度、キッズ委員会はグラスルーツ委員会のキッズ部会となる準備に入っています。活動自体は、現状変わりはありませんが、今後はキッズ活動だけでなく、県の中でも草の根活動（普及）を担う委員会の中心となります。これからは、県全体で普及への取り組みに力を入れていきたいです。

◇関東・全国ミーティング

今年の、関東ジョイントミーティング・全国のミーティングはZOOMで行われました。毎年ミーティングは他県に出向くことが多く委員長のみでの参加でしたが、今回はZOOMでの参加で、参加枠は少人数でしたが、協会での接続でキッズ委員の参加やユースダイレクターの方の参加も出来てキッズの活動の共有をすることが出来ました。

全国の仲間が、どのようにコロナの対策をしながら、現状で活動できているかなどの成功事例も聞けたため、栃木で出来ることを取り入れていきたいと思っています。



協会にて全国ミーティング参加

◇地区での活動

今年度、全県同じで苦勞されていると思いますが、私の地区の北那須も同様に、非常事態宣言や活動自粛の影響で、消毒や体温測定の実施や予定回数が出来ないなどいろいろな制約を受けながらの実施となりました。そんな手探りの中、人数を少人数（チーム所属）とし、出来る範囲内での活動になりました。練習内容も接触をしないように個人練習を多めに組むことで対策を行っています。そんな中でも参加している子供たちの笑顔で取り組む姿は、私たち大人が、いつでも日常にサッカーができる場所を作り出さないといけないと思いました。今後もまだまだ先の見えない中ではありますが、明日の子供たちの笑顔のために、来年度に向けて準備中です。



栃木県でも各年代でサッカーの競技人口が少なくなっており、グラスルーツ委員会（キッズ委員会）では、今後もサッカーをするきっかけ作りのため努力していきます。

協会はもちろんですが、全地区、全委員会のオール栃木で、フェスティバルや地区での活動を支援できるようにグラスルーツ委員会（キッズ委員会）になりますので、もし地区での開催に興味がありましたら、お声掛けください。各地区のキッズ委員の方や、他の委員会のみなさまと一緒に種をうえる活動を開催していければと思っています。よろしくお願ひします。



フットサル委員会・連盟

宮川フットサル委員長に聞く
フットサル コロナ禍の1年

公共の体育館や多目的施設が試合のメイン会場となるフットサル。屋内での試合を運営するフットサル委員会・フットサル連盟は、他のカテゴリーとはまた違った新型コロナ対応を強いられることになりました。コロナ禍で各種大会の運営を担った宮川進フットサル委員会委員長に、コロナ禍の1年を振り返ってもらいました。

何よりも大変だったのは緊急事態宣言などに対応しての日程組み替えでした。日本サッカー協会、スポーツ庁、栃木県サッカー協会などがコロナ禍の練習や大会運営に対するガイドラインを相次いで出してきたことで、それらへの対応に追われました。フットサルは室内競技ですので、関東フットサルリーグのガイドラインを参考に栃木県フットサルリーグ独自のガイドライン第1報を出したのが7月10日のこと。当然、体育館なども閉鎖されていたので、開幕は5月の予定が7月までずれ込みました。2019年度のリーグ入替戦が3月にあり、そこでも検温と消毒を徹底しました。そこから約4カ月、公式戦が動かなかったことになります。



ガイドラインは新型コロナの感染拡大状況によってその都度作り直し、9月16日付で第6版を発行。最終的には12版までガイドラインを作りました。主なコロナ対策となったのは、試合2週間前からの検温を要する健康チェックシートの活用、消毒、プレーしている選手以外のマスクの活用、ベンチの選手間の距離、換気、無観客試合の実施などで、各体育館の使用上の注意なども考慮に入れながら大会運営を図りました。特に密を避けるためにベンチを2列にして選手間の距離をとる方法などは、他県の大会運営でも参考にされたと聞いています。

これらの対策が奏功し、栃木県フットサルリーグ、男女の全日本選手権大会県予選などは問題なく開催できました。しかし第1波の期間にぶつかった全国大学大会県予選や、全日本ユース(U-18)選手権県予選などは中止となりました。また全日本ユース(U-15)選手権県予選は予定通り行われ

たものの、本県開催だった関東大会は使用予定だった体育館が使えず、埼玉県での開催を余儀なくされました。

幸い公式戦登録をしている競技人口は例年並の約400人。アンダーカテゴリーはサッカー登録でもフットサル大会の出場が可能なため、フットサルの公式戦に出場した選手は総数で500人を超えました。コロナ禍でも、アクションプランで目標としていた500人を超えたことは大きな収穫でした。

新シーズンはこれまで使っていた真岡市スポーツ交流館が新型コロナウイルスのワクチン接種会場になるなど、大会運営にも大きな影響が出ています。まだまだ感染症対策は必要かとは思いますが、感染者を出さない大会運営に努めていきたいと思っています。

参入戦で相次ぎ強豪撃破
栃木シティ 関東リーグ昇格

モランゴ栃木FCから名前を変え2シーズン目の栃木シティFCが、栃木県フットサルリーグ1部を制して進んだ第23回関東フットサルリーグ参入戦で勝利し、新シーズンの関東リーグ2部昇格を決めました。参入戦は千葉県館山市の館山運動公園体育館で2月28日、3月6日と行われ、栃木シティFCは1回戦の情熱ロンリネス(東京)に4-2、続く昇格決定戦の順天堂大フットサル部ガジル(千葉)に4-1と快勝しました。2019、20年と栃木県勢がいなかった関東リーグに、栃木シティFCがモランゴ栃木FC時代以来3年ぶりに復帰することになります。今季からチームの指揮を執った松田大次郎監督に参入戦を振り返ってもらいました。

情熱ロンリネスも順天堂大フットサル部ガジルも走ってくるアグレッシブなチームということは、事前のスカウティングで分かっていた。そのため初戦の情熱戦は、相手の速い攻撃に付き合うことはしないようにと、全体的にディフェンスラインを下げたスタートしました。相手に2点の先行を許しはしましたが、うちにもチャンスはあったので焦りはありませんでした。

「1点取るまでの辛抱」と粘り強く戦い、前半は0-2で折り返すことになりました。パワープレーなど攻撃の引き出しは残っていたので、劣勢なイメージは持ちませんでした。前半にリードはされましたが、選手たちの体力を温存できたことで、後半は前からプレッシャーをかける戦術に変え、次第に試合の主導権を握っていきました。その

結果、後半に4点を挙げて逆転勝ちをすることができました。



▲関東リーグ昇格を決めた栃木シティFCの選手たち

ガジル戦も戦い方は情熱戦と基本的には一緒でした。相手は速く攻撃をしたいチームだったので、うちが引いて守ったらその特徴は出せません。ハーフで構えて人数をかけて守ることから試合に入りました。相手は大学生なので、走り合って勝てるかもしれませんでしたが、走り合うよりスペースを消して、数的優位な場面をつくることを優先しました。さらに開始15秒で先制点を奪え、その後前半で3-0まで点差を広げられたので、うまく試合を進めることができました。セットプレーでの得点もイメージ通りでした。選手たちがゲームプランを徹底して戦った結果です。

新シーズンは自分たちの戦い方が特に変わるわけではありませんが、リーグのレベルが格段に上がります。負ける気はしませんが、自分たちがどれだけできるか試すシーズンになります。当然、結果を求められる戦いでもあるので勝ち続けていくだけです。新シーズンの監督は未定ですが、自分が引き続き指揮を執ることになったら、これまでは比較的選手の出入りが多いチームだったので、土台を造った上で関東リーグ1部昇格を目指して戦っていきたいです。



女子委員会・連盟

徳田女子委員長に聞く
女子サッカー コロナ禍の1年

東京オリンピックが1年延期となり、2年後に栃木国体が迫る2020年は、女子サッカーにとっても新型コロナウイルスに苦しむ1年となりました。開催が予定より遅れた公式戦、中止となってしまった公式戦などもあり女子委員会は運営側として難しい舵取り役を担いました。知恵工夫と実行力で乗り切った女子サッカー連盟の徳田明義委員長にコロナ禍のシーズンを振り返ってもらいました。

新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、昨春、第1波の自粛などもあり、そこから女子サッカー連盟の各種事業には大きな影響が出ました。6月8日、私の名前で「女子連盟主催の大会開催及び運営について」という通知を各チームへ配布し、それまで関係者で議論を尽くし完成させたガイドラインの徹底を図りました。



日本サッカー協会が策定した「JFAサッカー活動の再開に向けたガイドライン」や男子の関東大学リーグなどを参考にしながら、①健康チェックシートの活用と提出②マスク着用の徹底③各チームの消毒液等の持参④無観客での試合実施など12項目を策定。これらを公式戦に臨むチームにはお願いしました。無観客試合などは周囲から異論が出たケースも若干ありましたが、最終的には協力をいただき、県内の選手からコロナの感染者は出さずに終わることができました。また栃木に試合に来ていた県外選手が、帰宅後、感染したというケースがありましたが、健康チェックシートで接触者を限定することができ感染経路を明確にすることもできました。

主要公式戦である栃木県女子サッカーリーグは4月開幕が3カ月遅れて7月19日に1部リーグ、2部リーグがそろってスタート。無事、開幕にこぎつけましたが、ホーム&アウェイで争う1部は1周だけの対戦になり、試合数は大幅に減少しました。その影響でリーグは昇格、降格のないレギュレーションに変更し、従来のリーグからはかなりかけ離れたものとなりました。

また、皇后杯やU-15などの各全日本選手権大会

の県予選は、関東大会が設定されていたため実施しましたが、高校生の総体、鹿児島国体に向けた関東ブロック大会、オーバー30といったオーバーカテゴリーの公式戦は中止になりました。女子U-16で争う来年の栃木国体は、現在の中学3年生が主力となりますが、活動もほぼできませんでした。当然、日々の練習も自粛となった期間は短くなく、コロナ禍とは言え、選手たちにとってはかわいそうなシーズンになってはしまいました。ただその中でも競技人口は大きく減ることはなく、新シーズンはチーム数が増える見込みもあります。

新シーズンは従来通りの事業予定で話が進んでいます。県リーグは4月17日スタート。運営も選手たちが自主性を持ってできるよう、各チームに成長を促していくこととなります。もちろんコロナ対策も引き続きやっていくこととなります。また、栃木国体に向けた本県チームの強化も佳境に入っていきます。並行して国体に向けた地元の応援団の結成などもあったらいいな、と思っています。ただ、その応援団の編成は女子連盟だけで動くには難しいものです。関係各方面に働きかけながら応援団の編成を模索したいと思っています。

審判委員会

審判委員会より

(公社) 栃木県サッカー協会審判委員会委員長
JFA 1級審判インストラクター 鈴木武明

日頃より審判活動にご協力いただきありがとうございます。

2020年も競技規則が改正されました。各種・各連盟とも新しい競技規則を適用、もしくは適用する準備をしていることと思います。

競技規則は「Introductionはじめに P8～」で、サッカー競技規則の理念と精神について書き始められています。そこには世界最高のスポーツである「美しいサッカー」の基盤である「公平・公正さ」や競技の「精神」について説明されています。競技規則を勉強する際、読み飛ばしがちですが、大切なところなので是非目を通してください。

さて、2020年は新型コロナウイルス拡散のため思うような活動ができませんでした。しかし、そ



の中でもいろいろと工夫し研修会や勉強会を行いました。強化審判研修会ではプロフェッショナルレフェリーである東城穰氏に参加をいただきZoomを用いて、12回のWeb研修会を実施することができました。Jリーグ現役で国際審判員の東城氏のアドバイスをいただけるのは、大変参考になり刺激にもなりました。また何よりもその奢らない人柄に惹かれた審判員も多いと思います。

女子委員会では斉藤女子委員長を中心に荒川1級審判員からユース4級審判員まで、女子だけでWeb研修会を行いました。こちらも女子だけの華やかな雰囲気の中、審判活動に興味を深めていただけたと思います。さらにその成果として2名の女子3級審判員が誕生しました。

新しい試みとしては、栃木県サッカー協会のホームページで参加者を募集し、誰でも参加できる「レフェリースタートアップセンター」が館岡インストラクター主導の下、始動しました。こちらもその中から早くも3級審判員が誕生したのは大変嬉しい出来事です。今後もこの活動は3級インストラクターの活躍の場として継続していきますので、4級を取得したはいいがどうも上手くいかない等の悩みを抱えている方は顔を出してください。

この先2021年におきましては、コロナに負けず活動を活発にするためWebで新規取得講習会や研修会を計画しますので、栃木県のホームページを時折見てください。また、栃木県では2022年に国体を控え、3級審判員の増員を図っています。3級昇級審査の方法を改善し、より受検しやすくなっておりますので、受検希望者は各種委員長までお問い合わせください。

栃木県審判委員会ではサッカーに係わる全ての人々が、清々しい思いができるよう努力していきたいと思っています。ご協力ください。

全国サッカー選手権大会 茨城県決勝を担当して

審判員 原 崇

今年は新型コロナウイルスの影響で、サッカー界に限らず、社会的活動の制限がありました。関係者の方々のご尽力により11月15日(日)に茨城県大会の決勝戦を無事迎えることができました。数年前から茨城県との審判交流事業として、栃木県の審判団3名が茨城県大会の決勝を担当しています。私は昨年に引き続き、鹿島スタジアムでの

決勝主審を担当させていただきました。対戦カードは昨年度と同様、鹿島学高校園vs明秀日立高校。無観客開催ということで、昨年度の決勝戦とは違った雰囲気でしたが、両チームの選手たちは最後まで試合に集中し、延長戦までもつれる好ゲームでした。結果は鹿島学園が勝利を収め、明秀日立の4連覇を阻みました。

私は1級審判員としてまもなく3年目を迎えます。現在はNCカテゴリーとして、各種別における全国大会での審判を中心に担当しています。様々な経験がようやく自分の身になってきたという手応えを感じながら、審判活動に取り組んでいる最中です。職業柄、私は3種でサッカーの技術指導に当たることがあります。全国レベルの大会で、教え子が選手として、私が審判員として同じフィールドに立つまで現役審判員を続けることが目標です。

2021年シーズンがまもなくスタートします。未だに新型コロナウイルス感染症の拡大が収まりません。残念ながらしばらくは、この状況が続く事を覚悟して、感染予防対策にも努めながら、サッカーのある日常が戻って来ることを願っています。



右から2人目が筆者

コロナ禍における全国大会開催 ～第53回全国高等専門学校 サッカー選手権大会～

(一社) 全国高等専門学校サッカー連盟理事
上野 哲

新型コロナウイルス感染拡大「第三波」が到来する厳しい状況下、2020年12月18日～21日まで、(公財)日本サッカー協会主催第53回全国高等専門学校サッカー選手権大会が静岡県裾野市の時之栖スポーツセンター裾野グラウンドで開催された。

コロナ禍収束の見通しが立たない中、2021年度

に栃木県においても各種別でそれなりに規模の大きい大会開催が計画されている。そうした大会関係者の皆さんにとって、以下の記録が少しでもお役に立つことがあれば幸甚である。



時之栖スポーツセンター裾野グラウンド

【大会実施時期と会場について】

本大会はもともと8月に兵庫県の神戸総合運動公園ユニバー記念競技場ほかで開催予定であったが、コロナ感染防止のために12月に延期された。12月は冬季で防寒対策のために密閉空間が多くなり、感染爆発のリスクが高まることも当然予想されたため、3月の開催も検討された。しかし卒業間近の5年生の選手はこの時期は多忙で大会参加どころではなくなるため、12月に開催することに決定した。

本来は2年以上前から会場予約するのだが、今回は急遽8月から会場探しに取りかかり、静岡県の時之栖スポーツセンターのご配慮で使用が可能となった。第2候補として大阪府堺市のJ-GREEN堺も使用可能であったが、北は北海道苫小牧市から、南は鹿児島市から参加する高専があるため、「できるだけ本州中央に近い場所で、しかし首都圏からは距離がある地域」ということで時之栖に決定した。



1回戦：松江高専vs近畿大学高専

【大会の主催・主管・後援団体について】

JFAは本大会開催に終始協力的で、非常に心強かった。大会費用も当初の予定額を支給された。ただ全国の高専校長によって組織されている全国高専連合会がこの大会の開催を認めてくれなかったため、地区予選出場を校長から禁じられた高専が多くあった。非常に緻密で具体的な感染防止対策や、大会中に感染が発覚した場合の対応法など、JFAの基準よりも遙かに厳しいものを準備したにもかかわらず、全国高専連合会はギリギリまで本大会の開催を承認してくれなかった。

幸いにも最終的に「主管はできないが、『後援』に名を連ねることは許可する」との約束を取り付け、何とか地区予選の実施にこぎ着けた。



1 回戦：沼津高専vs福井高専

【地区予選について】

そうは言っても、地区予選を開催できない地域が実際にあった。

感染拡大が最も深刻だった関東地区では、部活動どころか学校での授業さえできない状況が続いている高専が多くあったため、前年までの実績を考慮して、茨城と小山が推薦され、出場することになった。北海道地区では、地区予選大会前日に札幌市の感染爆発に伴い移動自粛が求められたた



1 回戦：明石高専vs苫小牧高専

め、参加校が地区予選会場に集結していたにもかかわらず、試合は取りやめになり、実績を考慮して苫小牧が推薦された。東北地区に至っては、予選参加を希望したのが仙台大専名取のみだったので、自動的に東北地区代表校となった。

【本大会参加校について】

コロナ感染拡大の影響は、参加決定校の出場可否にも影響を及ぼした。

学校内でコロナ感染者が発生したため、東海地区代表の岐阜高専は開催10日前に、また本県所属の関東地区代表の小山高専は開催前日に出場辞退を決定した。また幸い出場辞退には至らなかったが、四国地区代表の弓削商船高専は、学校がある弓削島の人口の20%を高専生が占めるため、「絶対に高専から感染者を出せない」という理由で、開催直前まで出場可否を検討した。

なお、辞退した岐阜高専の代わりには東海地区第2位の沼津高専が出場した。小山高専は辞退の報告が開催日前日で代替出場校の選任が時間的に不可能であったため、不戦敗となった。

【感染対策と円滑な運営の両立について】

コロナ感染の可能性をできる限り減らすため、大会運営の実働スタッフも最少人数におさえ、高専連盟役員8人のみで担当した。

人同士の接触の機会を減らすため、マッチコーディネーションミーティングは行わなかったが、マッチコーディネーター（MC）は配置したため、1回戦が開催された初日はMC資格をもつ役員が1人で1日3試合を担当せざるをえなくなった。

観客入場制限に関しては、1選手につき保護者2名まで、1チーム上限40名とし、管理を徹底した。会場入場時の検温、検温チェック表の提出、アルコール消毒、番号札による管理を、担当者2名で行った。トイレ等で途中で入退場する選手や保護者、役員に対しても、その都度アルコールによる手指消毒を徹底した。

特に、初日は「とにかくバタバタで際限なく忙しかった」という一言に尽きる。個人的には、早朝から3面のピッチチェックとゴールネットの補修、合間に審判団の世話、入場者の感染対策、大会審判副委員長としての対応、MCと試合観戦しながら優秀選手候補者の選出、公式戦終了後は参加校Bチーム同士のフレンドリーマッチの主審を務め、日が落ちてからは当日の試合記録表と審判報告書の確認、翌日の試合の感染対策キットの作成など、朝8時～夕方19時まで、ほぼ何らかの形で

作業に関わった。昼食の弁当は、あまりに忙しすぎて、大会期間中は夕方の18時頃まで食べることができなかった。



2回戦：鹿児島高専vs宇部高専

【審判団について】

主審は1級か2級、副審は2級か3級、第4の審判員も2級か3級の資格をもつ審判員が担当した。全員（一財）静岡県サッカー協会からの派遣審判員である。

私はまだ現役の審判員なので、その意味で少し辛口の批評になっているかもしれないが、残念に思うことが少なくなかった。



黒タイツを履いて試合に臨む主審



ピッチ「内」を全力走する副審



私用のジャージを着て業務にあたる第4審

個々の判定に関しては、少なくとも私が見た試合に限っては、疑義を抱く場面はなかった。しかし、「主審が黒いタイツを履いていた」「第4審が（恐らく自分が指導している）少年チームのジャージを着ていた」「副審はタッチライン沿いをまっすぐ走ることができず、60cm近くピッチ内に入っていた」「第4審は、交代ボードの『4』が作れず、高専生の記録員に教えてもらっていた」「試合中の用具点検後の再入場に関して、インプレー中の再入場を認めなかった」など、栃木県であれば審判指導者に確実に怒られるようなことが散見された。

なお、今大会には、静岡県協会からの審判インストラクターの派遣はなかった。

何はともあれ、JFA、時之栖スポーツセンターのスタッフの皆さん、静岡県サッカー協会、大会参加チーム関係者のご尽力のおかげで、深刻な負傷をした選手もなく、またコロナ感染者も出すこともなく、無事に大会を終えることができた。関係した皆様に改めて心より感謝を申し上げたい。

「栃木レフェリースタートアップセンター」開設

サッカー2級インストラクター
館岡孝弘

現在、栃木県内の登録審判員は4525名おり、内訳は1級6名、女子1級1名、2級55名、3級415名、4級4048名です。年々、各種別（社会人、高校、中学、クラブユース、少年、女子、シニア）での試合数が増加傾向にあり県内での審判派遣が困難になっています。この状況を打開するべく、「アクティブに活動してもらえる審判員を育てるにはどうしたら良いか？」を検討した結果、栃木県と

「栃木県に移籍してきて」

2級審判員 関ミケーレ

して上級審判員（1級、2級）への指導と並行して3級、4級審判員の育成強化にも目を向けました。そしてすべての審判員の入り口である4級審判員をメインとした育成の場「栃木レフェリースタートアップセンター」を開設いたしました。

当初は4月から開設予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、8月からの開催とし、4月から7月までは、コロナウイルス対策や担当インストラクターの編成、開催回数、講義内容や進め方などを話し合い、受講者がサッカー審判員のノウハウを持ち帰れるように準備をいたしました。

記念すべき第1回は8月29日に開催され、参加者は受講者、インストラクター、オブザーバーも含めると30名を超えました。これまで4回開催しており、受講者の平均参加数は20名になっております。受講者の内訳は中学生から社会人(女の子、お母さん、お父さん、高校生)が受講しています。

講義内容は競技規則を中心にプレゼンテーションやグループディスカッション、チュータリングなどを行っています。今後の予定として映像を用いたディスカッション、練習試合を用いた実技研修会、室内でもできるスモールプラクティカルトレーニング(試合の一部を模擬した練習)など、より実践でできることを増やしていきたいと考えています。

嬉しいことに、「栃木レフェリースタートアップセンター」を開催して、早々に2名の3級合格者も出ました。実績の話ばかりすると、審判は厳しい世界に思われがちですが、決して敷居は高くはありません。一度参加したら毎回参加しなければいけないものでもなく、皆さんのペースでご参加していただければと思います。栃木県のサッカーを盛り上げるために審判を始めませんか？皆さんのご参加をお待ちしております。

興味をお持ちの方は下記のメールアドレスまでご連絡をお願いいたします。

(公社) 栃木県サッカー協会審判委員会

担当者 舘岡 孝弘

メールアドレス tfa.startup@gmail.com



栃木県のサッカーに携わる皆様、はじめまして。関ミケーレでございます。私は大学1年生の時にサッカー4級審判員の資格を地元東京で取得し、関東大学サッカー連盟審判部などを経て2級審判員を大学4年生の時に取得しました。そして大学卒業後は九州の佐賀県にて通訳として3年間働いたのち、2019年4月に栃木県に引っ越したため審判の登録も栃木県に移籍しました。



私は栃木県に、真面目・実直・保守的というイメージを持っており、東京から来た「よそ者」を受け入れてもらえるか不安であった。しかし、初めて参加させて頂いた審判トレセンでは温かく迎え入れて頂き、気さくに話しの輪に入れて頂いた事を昨日の様に覚えています。そして今日では個人的な相談事にまで乗って頂いており、東京では感じる事の出来なかった温かさ・人情味を強烈に感じています。

新型コロナウイルス感染症の蔓延拡大による緊急事態宣言発出などにより満足に試合が出来ず歯がゆい日々を過ごした時期もありました。しかし、その歯がゆい時期のおかげでサッカーに対する思いが強くなったと共に、自分を見つめ直すことが出来ました。早く以前同様な日々が戻り週末のサッカーを楽しみに日々の仕事・トレーニングを頑張るといふ日々を切望しています。そして今後とも1級審判員資格の取得のために栃木県サッカー協会や栃木県所属審判員の皆さんのお力添えを頂きながら努力・精進を続けていきたいと思っています。

今後、身体が動かなくなるまで栃木県で審判員として活動したいと思っており栃木県のサッカーをレフェリングの面からサポートしていきたいと思っております。また栃木県のサッカーに携わる全ての方々と共に、栃木県のサッカー文化の発展・振興に微力ながら尽力したいと思っております。どうぞ末永くよろしくお願いを申し上げます。

2021年度 サッカー2級審判資格更新講習会

サッカー2級審判員 黒澤 幸樹

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、今年度は「ZOOM」による、オンライン形式での更新講習会と、いつものように集合型での更新講習会を選べることになった。

参加人数は下記の通りである。

11月14日	真岡市民公民館	参加人数	20名
11月23日	オンライン講習	参加人数	18名
11月28日	オンライン講習	参加人数	16名

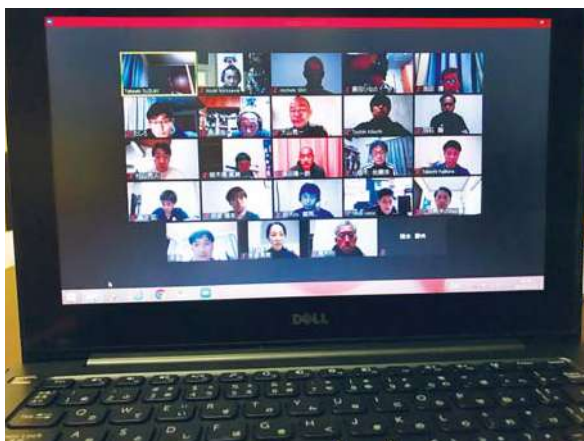
私は11月23日のオンライン研修に参加しました。今回、初めてオンラインでの研修会を行う人も多くいたため、手探りの中行っただけというのが正直なところでしたが、鈴木武明審判委員長のリードのもと内容の濃いものであったと感じました。

今回の研修のテーマは主に競技規則の改正についてでした。いくつかテーマについて、オンライン上で参加者がグループディスカッションをして、そのために何が必要で何をしなければならないのかを共有しました。

更新講習会の内容

- ・ 競技規則の改定について（アドバンテージ後の警告）
- ・ 競技規則の改定について（ハンドの反則）
- ・ コンタクトプレー
- ・ オフサイド
- ・ マネジメント

鈴木委員長からの説明は、分かりやすくシンプルで、とても参考になるものでした。



これからこのようなオンラインでの研修会が多くなると思いますが、今回の経験を生かして更により良い研修ができるようにしていきたいと思えます。



3級審判インストラクター トレセンへの参加

樋口 大輔

この度、栃木県サッカー協会女子委員会の徳田明義委員長からお話をいただき、3級インストラクタートレセンに参加させていただきました。

栃木県では以前より、審判員のレフェリング技術向上を目的とした審判トレーニングセンターが月に1回行われています。各カテゴリーで活躍されている指導者や上級審判員の方々から、最新情報の紹介、自身の体験談、新ルールの解説などをいただける大変貴重な研修であり、私も数年前から参加させていただいております。多くの先輩のアドバイスやメンバーの方々との情報交換をさせていただくことで、自分の体験以上の経験値を習得することができ、その結果、2級審判員の資格も取得させていただくことができました。



(研修風景①)

今回参加させていただいた審判インストラクタートレセンは、2019年度から各都県でも開催されることとなった審判指導者の養成講座であり、レフェリング技術に関する知識習得のみならず、審判指導に必要とされる技能スキル（①ITスキル、②アナリシス、③チュータリング、④プラクティカル、⑤フィジカル）を習得することで、指導力の強化を図るものです。まだスキルアッププログラム的一端を垣間見たにすぎませんが、人にもものを伝えることの難しさと責任の重大さを改めて考えさせられました。

以前、指導者の先輩に「人を指導するには、教わる人の10倍の知識と経験が必要である。」と言われたことがあります。思い出たびに身のすくむ思いですが、このような機会と環境を与えてくださった方々に感謝するとともに、トレセンで学んだことを少しでも多くの人に伝える役割を果たせればと思います。



(研修風景②)

普段は、女子のCATEGORYでチームの技術指導および帯同審判員として活動しております。過年度、審判員の育成については年2回の審判トレセンが行われてきました。2020年度はコロナ禍により思うような活動が出来ませんでした。12月に高校生の大会で実技研修会をさせていただきました。

女子は競技人数が増えてきているものの、競技を継続する環境がまだまだ十分ではなく、審判員数については言わずもがなの状況です。そのような状況を少しでも改善すべく組織運営やチーム運営にご尽力されている皆様に敬意を表しつつ、私も微力ではありますが貢献できるように取り組んでいきたいと思っています。



(研修風景③)

サッカー3級審判員として 過ごした2020シーズン

サッカー3級審判員 生沢 世奈

昨年4月、ありがたいことに3級に昇格させて頂きました。新型コロナウイルスの影響でずっと活動できていませんでしたが、Web研修会などで上級審判員の方々の話を聞く機会があったので、3級として活動する前に意識を高めることができました。自粛期間中たくさんWeb研修会に参加してもらいましたが、その時感じたのは、映像を観たときは事象が分かって、「同じような場面が実際に試合中に起こったときに正しく判定ができるか」と言われたら難しいということです。目の前で起こる一瞬の出来事を常に正しく判定することは、とてもとても難易度が高いことだと思います。しかし研修会を重ねるごとに、早くこの経験を試合で活かしたいと思うようになりました。



3級昇格時、相楽亨さんにご指導いただく
(立川甚吾氏撮影)

自粛要請期間が明けて、学校再開に伴って部活も再始動し、研修で学んだことを実践できる機会が少しずつ増えました。女子連盟で実践形式の研

修会を開いてくださったので参加して、自粛期間中に衰えてしまった体を徐々に戻していきました。女子の研修会では、インストラクターや上級審判員の方々が、私の動きに関して直接アドバイスや意見をくださったのでとても有意義なものになりました。

ところで、もともと私は学校のサッカー部にマネージャーとして入部し、誘われて審判員を始めました。サッカー未経験だったのでルールは殆ど知らなかったのですが、たくさん勉強して人並み以上に分かるようになりました。入部当初は審判資格をもっていなかったので部活中の紅白戦の副審をしていました。夏に4級を取得してからは、栃木県社会人リーグ等の公式戦も担当させてもらえるようになりました。3級になってからは割当も増え、女子の試合も担当させてもらっています。この1年半でたくさんのカテゴリーの試合を経験できました。

ていますが、とても良い経験になっています。今まであからさまに「舐められている」と感じたことはありませんが、選手はかなり歳の離れた大人達なので、審判をするときは気を張っています。副審を担当するときは、とにかく争点やDFラインから置いていかれないようについていっています。社会人の選手は少しのミスや、ミスでなくともとやかく言う人が多いので、文句を言う選手を相手にしないスルースキルの修得には好都合でした。勿論最初は文句を言われるともの凄く嫌だったし、自信も持てなくなりましたが、慣れが大事だと思います。経験を重ねていくうちに、社会人はスピードで一気にボールを前に運ぶというよりは技術でボールを前に運ぶ感じなので、展開から遅れることもあまりなくなり、次第にやりにくさを感じることもなくなりました。



第29回関東高等学校女子サッカー選手権大会



栃木県社会人サッカー3部県南リーグAブロック



関東高校女子選手権大会で副審を担当

私の公式戦デビューは、栃木県社会人サッカー3部リーグの試合でした。一度もやったことのない第4審だったので、今思い出してもなかなか不甲斐なかったと思います。公式戦の審判は、社会人リーグの男子の試合を最も多く担当させてもらっ

一方で、学生のチームはスピードがあり、度々置いていかれてしまうことがあります。特に男子高校生のゲームは短い距離を往復することが多い印象です。運動量が多くスピードもあります。さらに、真夏の暑い中あれだけ走っても簡単にはバテません。実際、私の今の実力では、同年代の男子のスピードについていけない場面が生じます。女子の場合は、細かい動きよりも前へ蹴って大きな動きをする印象が強いです。女子の高校選手権の審判も担当させてもらいましたが、シュートが決まる度にみんなで集まり喜んでいるのを見て、独特の雰囲気を感じました。女子中学生の試合ではそのような場面は見受けられなかったもので、やはり環境や、大会の大きさで一つ一つのゴールの重みが違うのかもしれないと思いました。

私としては、女子中学生の試合が一番実力を発揮できます。女子中学生の試合を舐めているとか見下しているつもりは全くありませんが、選手の年齢が自分よりも下ということもあって、気持ち

的に楽になれます。試合展開もあまり難しいものがないため、自信をもって判断することができます。中学生でも男子になると、やはり追いつくのがギリギリという場面が出てきましたが、とにかく舐められたくないという気持ちがいいモチベーションになり、何とか食らいついていきます。



第26回関東クラブユースサッカー選手権大会

私が所属しているサッカー部で毎日行っている紅白戦では、個々の選手の特徴もチーム戦術も大体分かっているので、なんとかそれらしく審判をやっています。最近は当たり前のように主審をやっていますが、未だにボールと文句は恐いです。実は私の判定に対する部員からの文句で何度か泣いたこともあります。しかしそのおかげで前述のスルースキルを身につけることができたので、結果的には部員に鍛えられて良かったと考えるようにしています。

右も左も分からずに始めた審判ですが、やっているうちに楽しくなりました。嫌々始めた訳でもないのですが、誘ってくれた顧問の先生に感謝です。私には練習できる機会がたくさんあるので、それを活かして次は2級昇級を目指して頑張ります。

大失態をしたりしました。そのことで、私の向上心に火がついて1年後の夏には3級昇格試験にチャレンジして無事、合格出来ました。審判をして行くうちにレベルの高い試合をやりたいと強く思うようになり当時、1種の委員長だった菅野氏に声を掛けさせて頂き県派遣審判員としてレベルの高い試合、上級審判員との審判チームを組むことによって更に上を、2級を目指したいと公言して活動して来ました。昨年は新型コロナウイルスの影響で7月まで試合がありませんでしたが始まってからは多くの試合の割当てを頂きました。特に主審を割当て頂き毎試合、指導者に来て頂いて数多くのアドバイスでかなり成長出来た1年でした。また関東U-15リーグや北関東大学リーグなど関東協会主催の審判が出来たことは、自信になったのと上でやるための更なる課題が明らかに視えて来ました。今年も新型コロナウイルスの影響でどうなるかわかりませんが、日々しっかりトレーニングと競技規則の理解度を上げてシーズン開幕に準備して置きたいと思います。最後に覚えの悪い自分を根気よく見て頂いている指導者の皆様、お互い声を掛けあって切磋琢磨出来る審判員の皆様、審判活動を理解して送り出してくれる家族に感謝して栃木県のサッカーの為に頑張りたいと思います。



更なるレベルアップを目指して

鈴木達也

2021年でサッカー審判取得10年目になります。始めたきっかけは長男が小学2年生の終わりくらいに地元のサッカークラブに入ったことで親が審判をするのが通例だった為、真岡の武道館で新規4級審判取得講習会にて取得しました。私は学生時代、社会人になっても野球をしていて走力、体力にはかなり自信がありました。しかし実際に審判をしてみると難しく失敗の連続で最初に主審をした試合では時計を回し始めるのを忘れるという

『女子審判員募集！』 ～目標に向かって、 いっしょに走りませんか～

女子審判委員会
委員長 齊藤 清美

昨年11月下旬から12月上旬に掛けて、皇后杯JFA全日本女子の試合が準々決勝まで、栃木県でも開催されました。

なでしこ達の華麗なプレーと共に、女子審判員達の素晴らしい走りを、スタジアムでご覧になっ

た方も多かったのではないのでしょうか。栃木県の荒川里実さん(女子1級)も主審を務めておられました。

『女子の試合は女子審判員で!』

私が3級審判員に挑戦したのも、この言葉で前委員長の徳田氏から、取得をすすめていただいたのがきっかけでした。

それから10年余り。現在私は女子連盟、連盟所属チーム、高体連女子、県審判委員会ご協力のもと、女子審判員の育成にも携わらせていただいております。

今年度初めには、県内女子の主要な大会の決勝戦を、女子審判員4名で担当するという目標を掲げましたが、お陰様で達成できました。



U-18県予選決勝の審判団

また、11月に実施された3級昇格審査会では、2名の女子審判員が無事合格となり、県内の女子3級は8名になりました。

少しずつ仲間が増えてきていて嬉しいところですが、2022年10月に開催予定の『いちご一会とちぎ国体』や、今後、リーグ戦を含め女子の大会が増えていくことを考えると、まだまだ女子審判員の数が足りていないのが現状です。

『部活動で取得が決まっていたから』『チームで帯同審判員がどうしても必要だったから』

『子供のサッカーを応援したくて』4級を取得するときの理由は様々です。(私の場合は後者です)

文句を言われることも少なくない環境の中、どうして審判員を続けていこうと思うのか。一緒に活動している審判員達と話をしていると、ひとつのワードが浮かんできます。

それは、ポジティブな『承認欲求』ではないかと思うのです。SNSでよく聞く言葉ですが、決して

否定的な意味ではなく、自己を高め、同じ目標を持つ仲間と協力し合い、公平公正に試合をマネジメントしていこうとする。その過程や充実感から、他では味わうことのできない『自己信頼感』が生まれるのではないのでしょうか。人から頼りにされる事もとても有意義ことですが、自分で自分を頼りにする(少し言い方が変ですが)ということは何ものにも代え難い経験になりますし、その努力は仲間や指導者が見てくれています。



シグナルも美しく

審判に求められる能力はいろいろあります。選手のスピードに追いつく走力。試合を通して動ききるスタミナ。次の展開を予測し、状況を正しく読む判断力。またチームや選手に対して落ち着いて接することが出来る人間力。フィジカル面でもメンタル面でも、一朝一夕に身につくものではありません。

どちらかというとなら成功体験より、失敗したことのほうが印象に残ります。けれども、その失敗を次の試合では何とか克服したいという前向きな反省が、また挑戦したいという気持ちに繋がっていくのではないのでしょうか。

一緒に試合に臨む審判団は、フィールドに入場する時、気持ちがひとつになります。『どうか素晴らしい試合になりますように』そこは選手の皆さんと一緒にです。そして試合の後の清々しい瞬間を目指して、一生懸命走ります。それが審判員同志、伝わってくるので、お互いに尊重し一緒に高みを目指せるのだと思います。

さあ、この意見に少しでも共感して下さったそのあなた、一步を踏み出してみませんか。

頼りない委員長ではありますが、仲間と一緒にサポートさせていただきます。



皇后杯関東大会

両立して得られること

栃木県女子審判員 齋藤香奈

サッカー3級審判員取得から1年が経とうとしております。

新型コロナやフットサル1級との両立、思うようにサッカー審判活動を増やせず難しい年でした。一方、割当を受けた日には先輩や指導者の方々からご指導いただき、「早く次の試合をしたい!」と思えるほどいつもやりがいを感じています。栃木県は上級審判員や偉大なる先輩方から研修会や会場で直接ご指導いただける機会が多く、恵まれた環境にあります。このような場所で、プレーヤーを辞めた今でもサッカーに関わることができ嬉しく思います。

フットサル1級の中にもJリーグを担当している方がおり、フットサルの試合で起きた事象をサッカーに置き換えて議論するなど多角的な視点で意見を聞くことができ、いつも刺激を貰っています。

一方で、フットサルで得たことをサッカーに生かすこともできます。フットサルでは狭い空間とハイプレスの中でいかにパスをつなぎゴールを奪うか、マークを外すかなど、足元の技術だけでなく緻密な戦術理解と瞬時の判断力を養えるため、近年ではフットサルを学ぶサッカー関係者も増えています。審判員も同様、スピーディな展開の中での判断力が身に付きます。アドバンテージ適用を考えWait&Seeをする0.2秒間には次の展開に移ってしまうため、瞬時の判断がより共感を得る判定に繋がります。ボールはピンポン玉のように弾かれ外に出ることが多く、終始高難度のタッチジャッジが続きます。競技者同士の身体的接触が日常的で、事象を見極める経験を一試合でより多く積むことができます。

私はサッカー審判を始めて、技術的・体力的に

足りない部分を新たに発見することができました。今はサッカー2級審判員を目指し、多くの課題を見つけ成長に繋げていきたいと思えます。また、同じサッカーファミリーとして、フットサル審判の仲間も増えていくことを願っています。

皆様、今後ともご指導のほどよろしくお願いたします。



左から2人目が筆者

栃木県フットサル審判員の 拡大増員を目指して

フットサル・ビーチサッカー一部
柳田 比左志

2020年度より、審判委員会フットサル・ビーチサッカー部の部長という大役を務めさせて頂くことになりました、フットサル2級審判員・フットサル3級インストラクターの資格を持つ柳田比左志と申します。

私が部長という役目のお話を頂いた時、一番最初に頭に浮かんだ事がフットサル審判員の拡大でした。現在栃木県内のフットサルでは、栃木県フットサルリーグを中心に試合が行われ、第4種～大学までのカテゴリーでは、年に1回全国大会まで繋がる県大会が行われるだけで活動が盛んなカテゴリーにおいてフットサル審判員として活動するのも年に1回ということから、なかなか増員拡大を図れない現状にあります。

拡大増員を図る為、私自身がなぜフットサル審判員として活動しているか振り返ると、私の長男が地元の少年サッカーチームに入り、私自身サッカーの経験があることからチームスタッフとしてお手伝いすることになりサッカー4級審判員の資格を取得し活動していました。いつの日からか上級審判員のレプリングに憧れを持つようになりサッカー3級審判員の資格取得を目標としていました。

少しの期間フットサル審判員として活動していればスピーディーな展開にも慣れ、サッカー3級審判員として役立つのではないかと思い、フットサル3級審判員の資格を取得し活動を始めました。はじめのうちは失敗の連続でしたが、活動しているうちにフットサル審判員のやりがいを感じるようになりました。そんな私にフットサル2級審判員の推薦のお話を頂きました。戸惑いはありましたが、なかなか頂けるお話では無いので推薦を頂き無事、フットサル2級審判員の資格を取得する事が出来ました。

私のようなものでも現在に至るまで、フットサル審判員として良い体験・出会いが数多く経験することが出来たことから、一人でも多くの方にフットサルのやりがいや楽しさを知っていただきたく、フットサル・ビーチサッカー部の皆さまの協力のもと2021年度よりフットサル審判員育成コースを開設しました。

まだまだ、フットサル審判員の拡大増員にはやるべき事が数多くあると思いますが、フットサル・ビーチサッカー部として少しずつ確実に拡大を図り栃木県フットサルの発展に貢献していきたいと思えます。



左から2人目が筆者

技術強化委員会

栃木県トレセンU-16活動報告

監督 只木 章広
コーチ 鷹觜 倫弘

今年度の活動は、コロナウイルスの感染拡大によるトレセンリーグや関東ブロック本大会、国体本大会の相次ぐ中止を受け、当初の予定から大幅に変更せざるを得ない状況になりました。そのような中で

11月23日に交流戦を行うことが決定したため、それに向けて10月に1回、11月に3回練習会を計画し、メンバー選考を行うと共に、栃木の目指すべき戦い方を共有することを目指しました。ちょうど高体連所属のチームは選手権の大会期間中でしたが、多くの選手に参加してもらい、感染症拡大防止の取組をしながら、有意義な活動を実施することができました。日頃の指導及び選手の派遣、送迎等を含め、選手を支える皆さまに感謝申し上げます。

昨年度の活動を踏まえ、我々スタッフで共有した栃木の目指すべき戦い方は、ボールを奪うチャンスを逃さず相手の隙を突いてゴールに迫ること、押し込まれた局面においても粘り強く対応し身体を張ること、攻守両面における切り替えの局面で相手を圧倒すること、でした。特に、守備のフェーズにおいて主導権を握るために、相手をどこに誘導しボールを奪うのか、主体的に振る舞うことの習慣化を目指しました。

目まぐるしく状況が移り変わる中で、その瞬間に何が出来るのかを考え、動き、言葉で伝えることができれば、たとえ個の力で及ばないような状況でもボールを奪う、ゴールを守ることが出来るはずです。そのために、プレーのたびに選手に意図や狙いを問いかけ、言葉で伝えること(考えを表に出すこと)を地道に促し続けました。選手たちはプレーの合間には言葉で自分の考えを表すことができますが、プレー中に互いに伝え合うこと、それを試合中続けることは難しいようでした。我々スタッフもトレセンという限られた時間の中で促し続ける難しさを感じましたが、お互いの意図を伝え合うことはサッカーというスポーツをする上では不可欠なものですし、トレセン活動の中で気づきがあって、今後の自チームの活動で実践できるようになってもらえたらと思えます。

U-16というカテゴリーをもって県内選手同士でのトレセン活動は終わりになります。栃木の宝である選手の皆さんが、日本の、世界の宝としてさらに輝いていけることを期待しています。また、ここで知り合った選手同士が互いに対戦相手として高め合ったり、次のステージでチームメイトになったり、本県の成年代表として活躍したり、良き友としての関係が今後も続いたりしてくれることも重ねて期待しています。

最後になりますが、今年度の活動を実施するにあたり、選手の派遣や送迎、会場の確保等、様々な面において協力いただいた学校、クラブ関係者、(公社)栃木県サッカー協会の皆さまに改めて感謝申し上げます。

成長期の見逃してはいけない腰痛!! ー腰椎分離症とは?ー

<はじめに>

サッカー選手において、腰痛に悩まされている選手は非常に多いことと思います。腰痛といっても様々な原因がありますが、今回は、成長期(主に小学生高学年～中学生)において見逃してはいけない腰痛である「腰椎分離症」に関して記載させていただきます。

「腰椎分離症」は簡単に言えば「腰の骨の疲労骨折」になります。まだ骨が成熟していない成長期に腰骨の同じ場所に力が加わり続けると骨がじわじわと骨折を起こします。「腰椎分離症」に対して最も大切なことは、①予防と②早期発見になります。成長期に腰椎分離症を起こし、その後遺症により高校、大学、社会人と腰痛が続いてしまうケースも多くみられます。成長期の対応が非常に重要です。

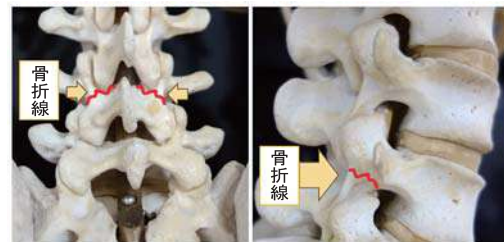
☆「腰椎分離症」の特徴

- ・成長期の 10歳-15歳の男子(女子の4-5倍)に多く発生します。
- ・腰椎分離症は、その程度(軽症か重症か)により治療方針が大きく変わります。
- ・発生には遺伝も関係すると言われており、兄弟姉妹に腰椎分離症が起こることがあります。
- ・治療の基本は、運動療法(コンディショニング)になります。



☆ 症状・発生部位

- ・2週間の安静で改善がない腰痛に注意して下さい。
- ・特に腰を反らせて、捻じった時に痛みが生じます。
- ・腰椎の5番目に発生しやすく、両側例も多いです。

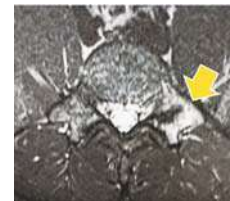


後ろから見た腰椎

横から見た腰椎

☆ 診断




- ・症状のみから「腰椎分離症」の診断は出来ません。必ず、症状と画像所見で診断を行います。
- ・画像検査は、レントゲン写真、CT、MRIを行います。
- ・初期の段階では、レントゲン写真で異常は分かりません。
- ・MRIは、極めて早期の段階で腰椎分離症を見つけることが可能です。
- ・CTは進行の程度を判断するのに有用です(初期、進行期、終末期)。



腰椎MRI

白い部分が腰椎分離症を示す

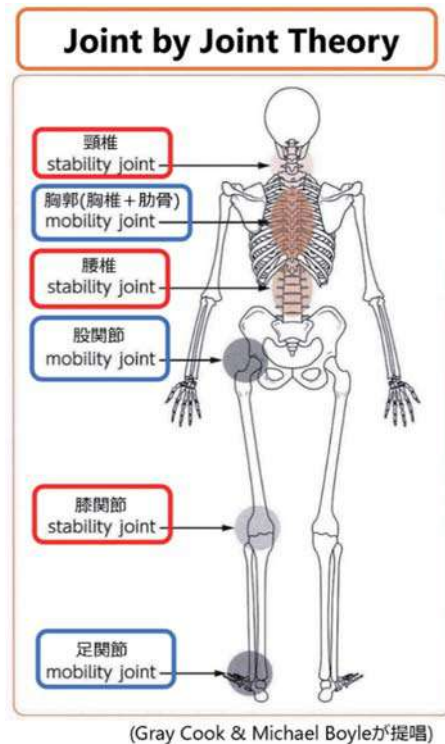
☆ 進行の程度による治療方針

	初期	進行期	終末期
腰椎の状態			
骨折線	細い	太い	大きく開大
骨折の治癒	治癒可能		治癒困難
治療方針	骨の癒合を目指す		骨の癒合は目指さない
治療法	運動制限、コルセット、リハビリ、手術治療(終末期のみ)		

☆予防法、コンディショニングづくり

◎腰椎の特徴を知ってください (Joint by Joint Theory)

ヒトの身体は、**mobility joint**(動きを担当する関節)と**stability joint**(安定を担当する)が交互に繋がっています。Stability joint である腰椎への無理な動き(過度なそりと捻り)が「腰椎分離症」を引き起こします。治療のポイントは、**mobility joint** である胸郭と股関節の機能改善になります。



◎腰をそらした時の姿勢を確認しよう！



- ①胸郭、腰椎、股関節のそりが共にみられている(Good : ^o^)
- ②胸郭のそりが見られず、腰椎が代償して過度にそっている(Bad : +o+) ⇒ **腰椎への負担大きい!**
- ③胸郭、腰椎、股関節のそりがなく、膝を曲げて身体をそらせている(Bad : +o+) ⇒ **体幹は不安定!**

◎胸郭、股関節に対する機能改善のエクササイズ

—胸郭の柔軟運動—



- ①キャットバックストレッチ
四つん這いで背中を猫のようにそらす。続けて背中を丸める。背中はおへそ見るように丸める。



- ②座っての胸郭ストレッチ
腰をそらさずに胸をはり、頭を抱えておへそを見て背中を丸める。
- ③胸郭の回旋ストレッチ
腰は捻じらないように胸を広げる。肘は天井に向かって。

—股関節の柔軟運動—



- ①股関節の伸展ストレッチ(右側)
ふとももの全面的筋肉(大腿四頭筋)のストレッチ。左側の股関節は出来るだけ曲げて行う。
- ②股関節の内旋ストレッチ(右側)
左足首で右膝を上から押すことで、右股関節の内旋ストレッチをかける。上半身は出来るだけ正面を向く。

*ストレッチは、練習のない日も毎日行うことが大切です。(日常の習慣にしてください)

*腰痛がある場合は、医療機関を受診してストレッチ指導を受けて下さい。

—おわりに—

- ・急激に身長が伸びる成長期は、骨の成長に筋肉の成長が追い付かず、身体の柔軟性が低下します。
- ・腰椎分離症の予防と再発防止のためには腰椎へ負担のかかりにくい身体づくりが重要となります。
- ・腰椎は捻じりの動きが苦手です。捻じりの支点が腰椎とにならないように胸郭、股関節の動きを意識しましょう。
- ・2週間以上長引く腰痛に対しては、一度医療機関にご相談頂けると幸いです。

文責：飯島裕生

菅又 さゆき

大坪 正一

奥澤 浩

飯山 勝一



人と自然が調和した街づくり目指す

鈴運メンテック株式会社



- 一般廃棄物の収集運搬
- 産業廃棄物の収集運搬
- 重機・一般貨物の運搬
- 倉庫の賃貸及び保管管理
- 高速道路の維持管理

〒320-0857
 宇都宮市鶴田2丁目2番10号
 TEL 028-648-6241(代)
 FAX 028-648-8318
<http://www.suzuun.co.jp>

オフィシャルサプライヤー
ミズノ株式会社

- 発行 公益社団法人 栃木県サッカー協会
- 編集 公益社団法人 栃木県サッカー協会 記録広報委員会
- 発行責任者 星野務 村上富士夫
- 印刷所 円印刷株式会社